

日本社会事業大学卒業者のキャリア形成と
大学の役割に関する調査研究報告書(第二報)
～学部・専門職大学院・通信教育科卒業生それぞれの
キャリア形成ニーズの特徴と比較～

2013年6月30日

福祉系大学・大学院・養成校卒業者のキャリア形成と 大学・大学院の役割に関する研究会

I. 研究の背景と目的

近年、社会ニーズの変化に対応するため、より高い専門性を持つソーシャルワーカーが求められるようになった。日本社会福祉士会は、認定社会福祉士や認定上級社会福祉士の資格を制度化していることから、社会福祉専門職には高度な知識や技術の習得が求められることが予想される。しかしながら、必要とされる知識や技能は必ずしも定式化されているとはいえない状況である。高い専門性を持つソーシャルワーカーのキャリア形成過程は必ずしも明らかになっていない。

また、今後は大学学部における基礎的な社会福祉学に加え、専門職大学院などにおけるリカレント教育の必要性が高まることが予想されるが、求められる教育内容は明確ではない。

このような背景のもと、昨年度（2012年度）日本社会事業大学（以下、本学）学部卒業生の卒業後のキャリア形成状況と上級ソーシャルワーカーに不可欠になると考えられる評価教育についてのニーズ調査が実施された。本研究では、さらに本学専門職大学院修了生と通信教育科（精神保健福祉士）卒業生に調査対象を広げて調査を実施した。これらの結果をもとに、今後の卒業生のキャリア形成に必要な要素や大学のあり方を検証し、大学院に求められる評価教育や科学的根拠に基づく実践（Evidence Based Practice; 以下 EBP）に基づく教育を加味したカリキュラムの再構築を目的とする。

II. 調査方法

本学は、敗戦後の日本における社会福祉の中核となる人材を多数輩出していることから、高度な専門性を持つソーシャルワーカーに必要なキャリア形成過程や大学のあり方を検証するために最適であると考え、研究対象とした。

具体的には、本学社会福祉学部、専門職大学院、精神保健福祉士通信教育科の卒業生のうち職業キャリア形成期または再構築期（卒業直後から 60 代前半を想定）該当者に対し、自記式アンケート調査票による悉皆調査を行った。この調査を実施するにあたり、本学学部卒業生名簿を管理する日本社会事業大学同窓会に協力を依頼し、提供された本学学部卒業者の名簿を基に、調査依頼状と調査票を郵送した。

【研究期間】

学部卒業生対象調査は 2012 年 1 月-2012 年 5 月、専門職大学院と通信課程卒業生に関しては 2013 年 1 月-4 月末日を調査期間とし、この期間に回収された調査票を分析対象として本報告書は作成されている。

【EBP への関心による群分け】

EBPプログラムに関連する項目群より、該当項目の得点を加算し「EBPへの関心」得点を算出した。「EBPプログラムに関連する項目群」とは、具体的には調査票の問12の3-8（専門職大学院版では「問16」、通信課程版では「問19」）であり、EBPに関する知識や学んだ経験、研修への参加意向などを4件法で尋ねる下記の項目である。

1．あなたは、「根拠にもとづく実践（EBP）」プログラムについて、どの程度ご存じでしょうか。

2．あなたは、以下にあげる代表的な「根拠にもとづく実践（EBP）」プログラムのうちで、研修会や授業で学んだ経験や、実際に取り組んだ経験をお持ちのプログラムがありますか。

3．あなたご自身のご経験からみて、EBPプログラムは、支援の必要な利用者の方やご家族にとって、どの程度役に立つとお考えになりますか。

4．社大では、EBPプログラムの研修や関連する技術講習などを含めて、実践力向上のためのリカレント教育に力を入れています。EBPプログラムの研修や関連する技術講習が企画された場合、あなたは参加してみたいとお考えになりますか。

5．あなたは、将来、いずれかのEBPプログラムに直接的に関わったり、あるいはEBPプログラム等の効果的なプログラムの実施・普及などの活動に関わったりしてみたいと思いますか。

6．EBPプログラムは、利用者の方の状態を改善するための日常的な実践の積み重ね、活動上の創意・工夫の中から生み出されたことが知られています。より効果のあがる実践活動を進めることについて、あなたはどのようにお考えになりますか。

これらへの回答は、得点を反転（高得点が高い関心を表すように得点を変換）した上で、各項目の得点を単純加算で足しあわせ、クロンバックの α を算出し内的整合性を確認した上で、EBPへの関心が高いほど得点が高い一次元的な尺度として扱い、分析に用いた。なお、6項目のうち欠損が3項目以上合った場合には尺度得点も欠損として扱い、欠損が2項目以下の場合には他の項目の平均値を欠損に代入し尺度得点を算出した。

【分析方法】

行われた分析は、大きく下記の2種類に分けられる。

- ・学部・通信課程（通信）・専門職大学院（PGS）の3群比較
- ・EBP得点と各項目と相関係数を学部・専門職大学院・通信課程の3群で比較

分析にはSPSS 17が使用され、2013年4月30日までに調査票が回収されデータ入力完了していた3,350件（学部卒業生2,160、通信課程卒業生974、専門職大学院216）を分析対象とした。なお、複数回答の設問で全項目に回答がなかった場合を「無回答」とし、「該当なし」の回答とは別に表に示した。

【倫理的配慮】

回収された調査票は、記名・無記名に関わらず、個人名等が特定されぬようコード化した。コード化した調査票は、入力してデータ化、単純集計を行い、社会福祉学部卒業生のキャリア形成状況と評価研究へのニーズを分析し、キャリア形成に必要な要素の抽出と評価教育やEBPへの関心度について、統計的手法を用いて分析した。このため、本稿で用いた資料によって個人が特定されることはないことを明記する。

Ⅲ．結果と考察

1．対象者の概要

1) 卒業した課程

学部、通信教育科、専門職大学院と社大で継続して学ぶものがいた。新たな資格取得や専門性の向上を考えての進路であると考えられる。

表 1-1 卒業課程（通信と PGS で複数回答）

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉学部	n	1945	56	23	2024
	%	90.0%	5.7%	10.6%	60.4%
本科	n	166	3	4	173
	%	7.7%	.3%	1.9%	5.2%
研究科	n	-	24	8	32
	%	-	2.5%	3.7%	1.0%
専修科	n	-	2	2	4
	%	-	.2%	.9%	.1%
専門職大学院	n	-	26	3	29
	%	-	2.7%	1.4%	.9%
研究科大学院	n	-	8	16	24
	%	-	.8%	7.4%	.7%
通信教育科・精神保健福祉士課程短期	n	-	272	11	283
	%	-	27.9%	5.1%	8.4%
通信・精神保健福祉士課程一般	n	-	237	10	247
	%	-	24.3%	4.6%	7.4%
通信・社会福祉士課程	n	-	74	4	78
	%	-	7.6%	1.9%	2.3%
その他	n	8	6	71	85
	%	.4%	.6%	32.9%	2.5%
他の課程はない	n	-	138	3	141
	%	-	14.2%	1.4%	4.2%
無回答	n	41	220	75	336
	%	1.9%	22.6%	34.7%	10.0%
合計	n	2160	1066	230	3456
	%	100.0%	109.4%	106.5%	103.2%

通信とPGSに関しては複数回答

2) 入学する前の業種等

通信教育科、専門職大学院ともに、社会福祉施設・事業所が最も多かった。通信教育科では、医療機関、行政機関と続き、様々な分野での勤務背景をもっていた。専門職大学院では、行政機関、その他企業（一般企業）と続いた。

表 1-2 入学する前の業種等

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉施設・事業所	n	-	319	78	397
	%	-	32.8%	36.1%	33.4%
医療機関	n	-	203	21	224
	%	-	20.8%	9.7%	18.8%
行政機関	n	-	137	26	163
	%	-	14.1%	12.0%	13.7%
社会福祉協議会	n	-	44	8	52
	%	-	4.5%	3.7%	4.4%
福祉団体	n	-	19	3	22
	%	-	2.0%	1.4%	1.8%
福祉関連企業	n	-	21	8	29
	%	-	2.2%	3.7%	2.4%
その他企業(一般企業)	n	-	60	26	86
	%	-	6.2%	12.0%	7.2%
教育・研究機関	n	-	53	11	64
	%	-	5.4%	5.1%	5.4%
福祉 NPO 法人	n	-	25	7	32
	%	-	2.6%	3.2%	2.7%
学生	n	-	19	10	29
	%	-	2.0%	4.6%	2.4%
専業主婦	n	-	17	0	17
	%	-	1.7%	.0%	1.4%
自営	n	-	18	3	21
	%	-	1.8%	1.4%	1.8%
その他	n	-	24	8	32
	%	-	2.5%	3.7%	2.7%
職業なし	n	-	11	6	17
	%	-	1.1%	2.8%	1.4%
無回答	n	-	4	1	5
	%	-	.4%	.5%	.4%
合計	n	-	974	216	1190
	%	-	100.0%	100.0%	100.0%

3) 入学する前の勤務形態

通信教育科、専門職大学院ともに、常勤が最も多かった。通信教育科では、非常勤や嘱託など多様な勤務形態をとられている方が多い傾向がみてとれる。

表 1-3 入学する前の勤務形態

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
常勤	n	-	734	174	908
	%	-	75.4%	80.6%	76.3%
非常勤	n	-	97	14	111
	%	-	10.0%	6.5%	9.3%
嘱託	n	-	38	1	39
	%	-	3.9%	.5%	3.3%
パート	n	-	34	3	37
	%	-	3.5%	1.4%	3.1%
その他	n	-	29	12	41
	%	-	3.0%	5.6%	3.4%
職業等なし	n	-	34	10	44
	%	-	3.5%	4.6%	3.7%
無回答	n	-	8	2	10
	%	-	.8%	.9%	.8%
合計	n	-	974	216	1190
	%	-	100.0%	100.0%	100.0%

4) 入学時に設定していた目的

通信教育科では、資格の取得が最も多かった。(94.6%) 専門職大学院では、専門的知識の習得が最も多く(79.6%)、次いで専門的技術の習得(47.2%)であり、より専門性を高めることを目的に入学しているものが多かった。また、専門職大学院では、これまでとは異なる進路の模索と回答しているものも、多かった。(30.1%)

表 1-4 入学時に設定していた目的 (入学希望のきっかけ)

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
専門的知識の習得	n	-	567	172	739
	%	-	58.2%	79.6%	22.1%
専門的技術の習得	n	-	273	102	375
	%	-	28.0%	47.2%	11.2%
資格の取得(社会福祉士)	n	-	921	70	991
	%	-	94.6%	32.4%	29.6%
スーパーバイザー能力の取得	n	-	-	35	35
	%	-	-	16.2%	1.0%
経営・管理能力の習得	n	-	-	59	59
	%	-	-	27.3%	1.8%
実践経験の体系化・理論化	n	-	-	83	83
	%	-	-	38.4%	2.5%
社大での人脈・ネットワークの形成	n	-	65	41	106
	%	-	6.7%	19.0%	3.2%
受講生同士の人脈・ネットワークの形成	n	-	83	30	113
	%	-	8.5%	13.9%	3.4%
現場・地域を変える力量の形成	n	-	138	57	195
	%	-	14.2%	26.4%	5.8%
これまでと異なる進路の模索	n	-	129	65	194
	%	-	13.2%	30.1%	5.8%
その他	n	-	13	5	18
	%	-	1.3%	2.3%	.5%
無回答	n	-	2	0	2
	%	-	.2%	.0%	.1%
合計	n	-	2191	719	2910
	%	-	224.9%	332.9%	244.5%

5) 性別

学部、通信教育科、専門職大学院ともに、女性が多かった。しかし、専門職大学院では、男女差が小さかった。

表 1-5 性別

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
男性	n	666	276	89	1031
	%	30.8%	28.3%	41.2%	30.8%
女性	n	1397	683	124	2204
	%	64.7%	70.1%	57.4%	65.8%
無回答	n	97	15	3	115
	%	4.5%	1.5%	1.4%	3.4%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

6) 年齢

学部は、高校卒業後すぐに進学した者が多いと考えられる。通信教育科や専門職大学院は、ある程度の現場経験をしている中で、新たな資格取得や学びへとつながっていた。

表 1-6 年齢

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
20歳代	n	312	38	13	363
	%	14.4%	3.9%	6.0%	10.8%
30歳代	n	389	325	63	777
	%	18.0%	33.4%	29.2%	23.2%
40歳代	n	355	225	52	632
	%	16.4%	23.1%	24.1%	18.9%
50歳代	n	354	239	45	638
	%	16.4%	24.5%	20.8%	19.0%
60歳代	n	395	128	36	559
	%	18.3%	13.1%	16.7%	16.7%
70歳以上	n	266	16	6	288
	%	12.3%	1.6%	2.8%	8.6%
無回答	n	89	3	1	93
	%	4.1%	.3%	.5%	2.8%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

7) 現職の勤務年数

学部では、20年以上が最も多く（19.9%）、通信教育科と専門職大学院ではともに、5-10年未満が最も多かった。

表 1-7 現職の勤務年数

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
1年未満	n	148	113	30	291
	%	6.9%	11.6%	13.9%	8.7%
1-3年未満	n	261	143	44	448
	%	12.1%	14.7%	20.4%	13.4%
3-5年未満	n	237	148	38	423
	%	11.0%	15.2%	17.6%	12.6%
5-10年未満	n	325	234	54	613
	%	15.0%	24.0%	25.0%	18.3%
10-20年未満	n	288	216	21	525
	%	13.3%	22.2%	9.7%	15.7%
20年以上	n	429	76	18	523
	%	19.9%	7.8%	8.3%	15.6%
無回答	n	472	44	11	527
	%	21.9%	4.5%	5.1%	15.7%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

8) 福祉職としての勤務年数

学部では、20年以上が最も多く（19.9%）、通信教育科と専門職大学院ではともに、10-20年未満が最も多かった。学部では、20年以上が最も多く（19.9%）、通信教育科と専門職大学院ではともに、10-20年未満が最も多かった。職場は変化しても、一貫して福祉職に携わっていることがわかった。

表 1-8 福祉職としての勤務年数

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
1年未満	n	191	72	10	273
	%	8.8%	7.4%	4.6%	8.1%
1-3年未満	n	162	54	15	231
	%	7.5%	5.5%	6.9%	6.9%
3-5年未満	n	198	78	25	301
	%	9.2%	8.0%	11.6%	9.0%
5-10年未満	n	326	247	61	634
	%	15.1%	25.4%	28.2%	18.9%
10-20年未満	n	352	361	64	777
	%	16.3%	37.1%	29.6%	23.2%
20年以上	n	613	97	32	742
	%	28.4%	10.0%	14.8%	22.1%
無回答	n	318	65	9	392
	%	14.7%	6.7%	4.2%	11.7%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

9) 福祉職としての勤務した主な領域

福祉職としての勤務した主な領域は、障害者福祉、子ども・家庭福祉、高齢者福祉の順で多かった。通信教育科では、精神保健福祉士課程であることから、精神保健福祉、障害福祉分野が多かった。専門職大学院は、高齢者福祉や障害福祉分野が非常に多かった。学部、通信教育科と比較して多かったのは、介護福祉や経営管理部門であった。

表 1-9 福祉職として勤務した主な領域

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
子ども・家庭福祉	n	634	119	43	796
	%	29.4%	12.2%	19.9%	23.8%
高齢者福祉	n	553	315	99	967
	%	25.6%	32.3%	45.8%	28.9%
障害者福祉	n	646	330	70	1046
	%	29.9%	33.9%	32.4%	31.2%
精神保健福祉	n	163	374	27	564
	%	7.5%	38.4%	12.5%	16.8%
保健医療福祉	n	181	158	14	353
	%	8.4%	16.2%	6.5%	10.5%
地域福祉	n	238	76	18	332
	%	11.0%	7.8%	8.3%	9.9%
公的扶助	n	224	43	12	279
	%	10.4%	4.4%	5.6%	8.3%
司法福祉	n	25	18	3	46
	%	1.2%	1.8%	1.4%	1.4%
女性福祉・ジェンダー	n	42	16	2	60
	%	1.9%	1.6%	.9%	1.8%
国際福祉	n	7	2	1	10
	%	.3%	.2%	.5%	.3%
介護福祉	n	204	96	32	332
	%	9.4%	9.9%	14.8%	9.9%
経営管理	n	0	20	21	41
	%	.0%	2.1%	9.7%	1.2%
政策立案	n	0	6	6	12
	%	.0%	.6%	2.8%	.4%
貧困福祉	n	0	28	11	39
	%	.0%	2.9%	5.1%	1.2%
その他	n	71	20	3	94
	%	3.3%	2.1%	1.4%	2.8%
特にない	n	245	62	7	314
	%	11.3%	6.4%	3.2%	9.4%
無回答	n	251	76	15	342
	%	11.6%	7.8%	6.9%	10.2%
合計	n	3484	1759	384	5627
	%	161.3%	180.6%	177.8%	168.0%

10) 在学中の履修コース

学部のみへの質問項目であった。

社大在学中の履修コースは、子ども・家庭福祉コースが最も多く、続いて地域福祉コースが多かった。介護福祉コースと精神保健福祉コースがやや少なく、国家資格制度の創設時期や社会背景が関係していると考えられる。

表 1-10 社大在学中の履修コース

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
福祉経営	n	185	-	-	185
	%	8.6%	-	-	5.5%
地域福祉	n	431	-	-	431
	%	20.0%	-	-	12.9%
保健福祉	n	175	-	-	175
	%	8.1%	-	-	5.2%
子ども・家庭福祉	n	648	-	-	648
	%	30.0%	-	-	19.3%
介護福祉	n	139	-	-	139
	%	6.4%	-	-	4.1%
精神保健福祉士	n	72	-	-	72
	%	3.3%	-	-	2.1%
保育士	n	311	-	-	311
	%	14.4%	-	-	9.3%
児童ソーシャルワーク	n	241	-	-	241
	%	11.2%	-	-	7.2%
その他	n	389	-	-	389
	%	18.0%	-	-	11.6%
無回答	n	328	-	-	328
	%	15.2%	-	-	9.8%
合計	n	2919	-	-	2919
	%	135.1%	-	-	135.1%

11) これまでに社大で履修した課程・履修コース

通信教育科では、精神保健福祉士課程の短期養成および一般養成が多かった。少ないが、通信の他の課程や専門職大学院の履修経験を持つものもいた。

専門職大学院では、ケアマネジメントコース、ビジネスマネジメントコースと多かった。少ないが、通信教育科で学ぶものもいた。

表 1-11 これまでに社大で履修した課程・履修コース

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
通信・精神保健福祉士・一般養成	n	-	406	11	417
	%	-	41.7%	5.1%	12.4%
通信・精神保健福祉士・短期養成	n	-	557	20	577
	%	-	57.2%	9.3%	17.2%
通信・社会福祉士課程	n	-	84	9	93
	%	-	8.6%	4.2%	2.8%
通信・社会福祉主事課程	n	-	6	3	9
	%	-	.6%	1.4%	.3%
専門職大学院・ケアマネジメントコース	n	-	30	145	175
	%	-	3.1%	67.1%	5.2%
専門職大学院・ビジネスマネジメントコース	n	-	2	69	71
	%	-	.2%	31.9%	2.1%
研究科大学院・前期課程	n	-	5	2	7
	%	-	.5%	.9%	.2%
研究科大学院・後期課程	n	-	4	0	4
	%	-	.4%	.0%	.1%
社会福祉学部	n	-	41	18	59
	%	-	4.2%	8.3%	1.8%
本科	n	-	8	2	10
	%	-	.8%	.9%	.3%
研究科	n	-	25	4	29
	%	-	2.6%	1.9%	.9%
専修科	n	-	2	2	4
	%	-	.2%	.9%	.1%
無回答	n	-	10	1	11
	%	-	1.0%	.5%	.3%
合計	n	-	1180	286	1466
	%	-	121.1%	132.4%	123.2%

12) 現在有する資格

学部では、現在有する資格では、社会福祉主事、社会福祉士、教諭の順が多い。通信教育科では、精神保健福祉士、社会福祉士と多かった。専門職大学院では、社会福祉士が最も多く、介護支援専門員、社会福祉主事と多かった。

表 1-12 現在有する資格

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉士	n	1004	569	182	1755
	%	46.5%	58.4%	84.3%	52.4%
精神保健福祉士	n	184	882	61	1127
	%	8.5%	90.6%	28.2%	33.6%
介護福祉士	n	246	184	48	478
	%	11.4%	18.9%	22.2%	14.3%
介護支援専門員	n	408	345	77	830
	%	18.9%	35.4%	35.6%	24.8%
主任介護支援専門員	n	35	48	10	93
	%	1.6%	4.9%	4.6%	2.8%
保育士	n	428	72	15	515
	%	19.8%	7.4%	6.9%	15.4%
社会福祉主事	n	1112	303	68	1483
	%	51.5%	31.1%	31.5%	44.3%
教諭	n	646	178	39	863
	%	29.9%	18.3%	18.1%	25.8%
養護教諭	n	135	28	8	171
	%	6.3%	2.9%	3.7%	5.1%
看護師	n	21	66	15	102
	%	1.0%	6.8%	6.9%	3.0%
作業療法士	n	3	6	0	9
	%	.1%	.6%	.0%	.3%
理学療法士	n	1	3	0	4
	%	.0%	.3%	.0%	.1%
その他	n	219	155	35	409
	%	10.1%	15.9%	16.2%	12.2%
以上に当てはまるものはない	n	139	21	8	168
	%	6.4%	2.2%	3.7%	5.0%
無回答	n	67	9	4	80
	%	3.1%	.9%	1.9%	2.4%
合計	n	4648	2869	570	8087
	%	215.2%	294.6%	263.9%	241.4%

13) 居住地

学部、通信教育科、専門職大学院ともに、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県を中心とした、関東圏が多かった。

表 1-13 お住まいの都道府県名

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
東京都	n	601	294	84	979
	%	27.8%	30.2%	38.9%	29.2%
神奈川県	n	352	68	26	446
	%	16.3%	7.0%	12.0%	13.3%
埼玉県	n	237	114	32	383
	%	11.0%	11.7%	14.8%	11.4%
千葉県	n	188	54	10	252
	%	8.7%	5.5%	4.6%	7.5%
静岡県	n	70	28	5	103
	%	3.2%	2.9%	2.3%	3.1%
茨城県	n	46	33	2	81
	%	2.1%	3.4%	.9%	2.4%
長野県	n	41	29	3	73
	%	1.9%	3.0%	1.4%	2.2%
北海道	n	46	15	7	68
	%	2.1%	1.5%	3.2%	2.0%
栃木県	n	41	20	4	65
	%	1.9%	2.1%	1.9%	1.9%
群馬県	n	50	11	3	64
	%	2.3%	1.1%	1.4%	1.9%
新潟県	n	43	4	1	48
	%	2.0%	.4%	.5%	1.4%
愛知県	n	21	23	0	44
	%	1.0%	2.4%	.0%	1.3%
秋田県	n	19	22	3	44
	%	.9%	2.3%	1.4%	1.3%
兵庫県	n	24	12	2	38
	%	1.1%	1.2%	.9%	1.1%
岩手県	n	23	11	1	35
	%	1.1%	1.1%	.5%	1.0%
福岡県	n	24	9	2	35
	%	1.1%	.9%	.9%	1.0%
沖縄県	n	15	16	3	34
	%	.7%	1.6%	1.4%	1.0%
(以下省略)					
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

14) まとめと考察

対象者の概要として、学部、通信教育科及び専門職大学院（以下 PGS）に共通することは、関東圏内に在住している、女性が多い、現在社会福祉士の資格を有していることがわかった。また、学部と通信教育科及び PGS を比較したところ、当然ながら年齢に大きな差を認めていた。入学前の職種として通信教育科、PGS 共に入学前は常勤勤務が多く、勤務先は通信教育科で医療機関、行政機関が多く、PGS は社会福祉施設・事業所が多い。通信教育科へ入学するものは資格取得を目的としており、PGS では専門知識、専門技術の取得を目的に入学しているものが多い。福祉職として在職していた期間では、通信教育科、PGS 共に 5-20 年が最も多い。また、領域として通信教育科では精神保健福祉、障害福祉分野が多く、PGS は高齢者福祉分野、障害福祉分野が多く、次いで保健医療福祉、介護福祉が続いた。

大学の所在地から居住地が関東圏域に集中することが推察できるが、学部卒業生の場合は、地方より上京し関東で就職している可能性があり、通信教育科及び PGS では通いやすさなどの理由から関東圏域の方が集中していると考えられる。また、通信教育科、PGS 共に福祉領域において、常勤である程度の年数を現場で従事していた専門職がキャリアアップを求めて入学していることがわかる。主に 5 年から 20 年程度勤務することにより、実践現場における様々な思いから、新たな資格や知識技術を求めて入学していることが考えられた。

今回の調査において、通信教育科は精神保健福祉士課程であることから、領域に偏りが考えられる。ただし障害福祉分野が多くを占めているのは、障害者を取り巻く支援環境が大きく変化し、実践家により高い専門性を求められ、それらに答えるべく、実践家が専門職としてのキャリアアップを求めている可能性が考えられる。近年では介護保険法の改訂や自立支援法の改訂や、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法が相次いで制定され、高齢者や障害者などをとりまく支援環境及び制度施策がめまぐるしく変化している。そのため、行政機関に務める福祉専門職を始め、実践家に幅広く専門性を求められていることが、よりキャリア形成のニーズを生み出している可能性が考えられた。また、学部卒業生のデータをみると子ども家庭福祉領域へ就職している率が、通信教育科、PGS と比べ高い。家族の構造や問題が複雑化している昨今では、子ども家庭福祉におけるソーシャルワーカーの配置も、教育分野に幅や広がりを見せつつあることなどから、今後キャリア形成のニーズが高まる可能性が考えられた。

2. 卒業後キャリア形成の概況

1) 卒後最初の業種等

この結果から、本学専門職大学院(以下、PGS)及び通信教育科の卒業生における卒後最初の業種は、学部卒業生の結果に比べ異なっている点を見つけることが出来た。卒後、【行政機関】に進む傾向がある学部生に対し、通信教育科の卒業生は【社会福祉施設】や【医療機関】に進み、PGSでは概ね【社会福祉施設】へと進んでいることが分かった。この結果については、通信教育科や PGS に入学する前の業種と大きな差は見られないことより、卒業後は元の業種に戻る傾向があるとうかがえる。

表2-1 卒後最初の業種等

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉施設・事業所(公益法人等)	n	610	387	93	1090
	%	28.2%	39.7%	43.1%	32.5%
医療機関	n	202	220	25	447
	%	9.4%	22.6%	11.6%	13.3%
行政機関	n	772	137	28	937
	%	35.7%	14.1%	13.0%	28.0%
社会福祉協議会	n	103	46	7	156
	%	4.8%	4.7%	3.2%	4.7%
福祉団体	n	22	15	9	46
	%	1.0%	1.5%	4.2%	1.4%
福祉関連企業	n	48	20	13	81
	%	2.2%	2.1%	6.0%	2.4%
その他企業(一般企業)	n	114	30	5	149
	%	5.3%	3.1%	2.3%	4.4%
教育研究機関	n	48	38	15	101
	%	2.2%	3.9%	6.9%	3.0%
大学院	n	21	7	2	30
	%	1.0%	.7%	.9%	.9%
その他	n	160	40	9	209
	%	7.4%	4.1%	4.2%	6.2%
職業等なし	n	36	22	6	64
	%	1.7%	2.3%	2.8%	1.9%
無回答	n	24	12	4	40
	%	1.1%	1.2%	1.9%	1.2%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2) 卒後最初の業務内容

卒後最初の業務内容では、通信教育科、PGS 共に【相談援助業務】に携わることが多い。また、学部卒業生が【相談援助業務】以外の業務として【SW 以外の対人援助業務】や【事務業務】を着手する傾向があることに比べ、通信教育科及び PGS 卒業生は【管理・運営業務】に携わる傾向があるとうかがえる。PGS 卒業生は他にも、【教育・研修業務】や【研究・評価・業務改善業務】に着手することが他の卒業生より僅かながらも高いことから、PGS で学んだ専門的知識・技術が組織や事業所の運営に活用されていることがうかがえる。

表 2-2 卒後最初の業務内容

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
相談援助業務	n	851	662	105	1618
	%	39.4%	68.0%	48.6%	48.3%
その他のソーシャルワーク(SW)業務	n	316	187	35	538
	%	14.6%	19.2%	16.2%	16.1%
SW 以外の対人援助業務	n	530	194	38	762
	%	24.5%	19.9%	17.6%	22.7%
事業所・施設内スタッフ等のスーパービジョン	n	93	82	10	185
	%	4.3%	8.4%	4.6%	5.5%
事業所・施設外のソーシャルワーカー等のスーパービジョン、 地域連携業務、コンサルテーション業務	n	63	66	12	141
	%	2.9%	6.8%	5.6%	4.2%
事務業務	n	510	175	46	731
	%	23.6%	18.0%	21.3%	21.8%
営業業務	n	50	24	6	80
	%	2.3%	2.5%	2.8%	2.4%
管理・運営業務	n	152	119	40	311
	%	7.0%	12.2%	18.5%	9.3%
教育・研修業務 (含、実習生受け入れ)	n	324	141	40	505
	%	15.0%	14.5%	18.5%	15.1%
研究・評価・業務改善業務	n	45	34	12	91
	%	2.1%	3.5%	5.6%	2.7%
その他	n	276	79	23	378
	%	12.8%	8.1%	10.6%	11.3%
職業等なし	n	230	22	8	260
	%	10.6%	2.3%	3.7%	7.8%
無回答	n	87	14	5	106
	%	4.0%	1.4%	2.3%	3.2%
合計	n	3527	1799	380	5706
	%	163.3%	184.7%	175.9%	170.3%

3) 卒後最初の勤務形態

卒後最初の勤務形態は、概ね【常勤】となっていることが分かった。一方で、通信教育科及び PGS に入学する前の勤務形態と比べると、【非常勤】、【嘱託】、【パート】といった勤務形態となる傾向が僅かながらもうかがえた。また、その割合は学部卒業生の結果と比較しても高く、様々な形で勤務に携わっていると言える。

表 2-3 卒後最初の勤務形態

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
常勤	n	1911	732	157	2800
	%	88.5%	75.2%	72.7%	83.6%
非常勤	n	98	110	29	237
	%	4.5%	11.3%	13.4%	7.1%
嘱託	n	21	42	4	67
	%	1.0%	4.3%	1.9%	2.0%
パート	n	28	37	8	73
	%	1.3%	3.8%	3.7%	2.2%
その他	n	26	17	7	50
	%	1.2%	1.7%	3.2%	1.5%
職業等なし	n	54	21	7	82
	%	2.5%	2.2%	3.2%	2.4%
無回答	n	22	15	4	41
	%	1.0%	1.5%	1.9%	1.2%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4) 現在の業種等

現在の業種では、通信教育科の卒業生において【医療機関】に勤めている割合が僅かながらに減少しているものの、それ以外は通信教育科及び PGS の卒業生の業種は概ね変わっていないということが分かった。

表 2-4 現在の業種等

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉施設・事業所(公益法人等)	n	537	343	90	970
	%	24.9%	35.2%	41.7%	29.0%
医療機関	n	127	192	23	342
	%	5.9%	19.7%	10.6%	10.2%
行政機関	n	458	146	31	635
	%	21.2%	15.0%	14.4%	19.0%
社会福祉協議会	n	86	46	6	138
	%	4.0%	4.7%	2.8%	4.1%
福祉団体	n	16	10	4	30
	%	.7%	1.0%	1.9%	.9%
福祉関連企業	n	37	24	9	70
	%	1.7%	2.5%	4.2%	2.1%
その他企業(一般企業)	n	79	34	3	116
	%	3.7%	3.5%	1.4%	3.5%
教育研究機関	n	84	47	18	149
	%	3.9%	4.8%	8.3%	4.4%
大学院	n	4	0	2	6
	%	.2%	.0%	.9%	.2%
その他	n	202	55	10	267
	%	9.4%	5.6%	4.6%	8.0%
職業等なし	n	469	62	14	545
	%	21.7%	6.4%	6.5%	16.3%
無回答	n	61	15	6	82
	%	2.8%	1.5%	2.8%	2.4%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

5)現在の業務内容

現在の業務内容では、【相談援助業務】に変わらず着手している他に、【管理・運営業務】に携わる傾向が、卒業最初の業務に比べ増加していることがうかがえる。また、【SW以外の対人援助業務】や【事業所・施設外のソーシャルワーカー等のスーパービジョン、地域連携業務、コンサルテーション業務】に携わる傾向も増加しており、事業所の運営を超えた、地域福祉の形成と発展に寄与していることがうかがえる。

表 2-5 現在の業務内容

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
相談援助業務	n	654	617	107	1378
	%	30.3%	63.3%	49.5%	41.1%
その他のソーシャルワーク(SW)業務	n	192	198	45	435
	%	8.9%	20.3%	20.8%	13.0%
SW以外の対人援助業務	n	314	181	38	533
	%	14.5%	18.6%	17.6%	15.9%
事業所・施設内スタッフ等のスーパービジョン	n	139	84	19	242
	%	6.4%	8.6%	8.8%	7.2%
事業所・施設外のソーシャルワーカー等のスーパービジョン、 地域連携業務、コンサルテーション業務	n	92	71	19	182
	%	4.3%	7.3%	8.8%	5.4%
事務業務	n	363	201	46	610
	%	16.8%	20.6%	21.3%	18.2%
営業業務	n	48	33	9	90
	%	2.2%	3.4%	4.2%	2.7%
管理・運営業務	n	268	128	55	451
	%	12.4%	13.1%	25.5%	13.5%
教育・研修業務（含、実習生受け入れ）	n	311	146	41	498
	%	14.4%	15.0%	19.0%	14.9%
研究・評価・業務改善業務	n	56	34	14	104
	%	2.6%	3.5%	6.5%	3.1%
その他	n	258	91	20	369
	%	11.9%	9.3%	9.3%	11.0%
職業等なし	n	206	58	15	279
	%	9.5%	6.0%	6.9%	8.3%
無回答	n	512	9	1	522
	%	23.7%	.9%	.5%	15.6%
合計	n	3413	1851	429	5693
		158.0%	190.0%	198.6%	169.9%

6) 現在の勤務形態

現在の勤務形態では、【常勤(任期なし)】と【常勤(任期あり)】に分かれた結果となっている。PGS 卒業生では、【非常勤】の割合が減少し、【常勤(任期あり)】へと移ったことがうかがえる。

表 2-6 現在の勤務形態

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
常勤(任期なし)	n	1279	691	145	2115
	%	59.2%	70.9%	67.1%	63.1%
常勤(任期あり)	n	150	113	34	297
	%	6.9%	11.6%	15.7%	8.9%
非常勤	n	51	42	6	99
	%	2.4%	4.3%	2.8%	3.0%
嘱託	n	101	37	5	143
	%	4.7%	3.8%	2.3%	4.3%
パート	n	60	21	7	88
	%	2.8%	2.2%	3.2%	2.6%
その他	n	409	60	16	485
	%	18.9%	6.2%	7.4%	14.5%
無回答	n	110	10	3	123
	%	5.1%	1.0%	1.4%	3.7%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

7) まとめと考察

卒業後のキャリア形成について、学部卒業生に比べ通信教育科及び PGS では、卒業最初の業種及び業務内容に差があることが分かった。また、通信教育科及び PGS では【管理・運營業務】、加えて PGS は【研究・評価・業務改善業務】に着手する傾向が認められた。卒業最初の勤務形態について、通信教育科及び PGS では学部卒業生と比べ若干ながら【常勤】以外の勤務形態となる傾向があった。

現在の業種について、学部卒業生に比べ通信教育科及び PGS では業種の変更が大きくないようだが、【教育研究機関】へ進んでいる傾向が認められる。

現在の業務内容について、学部卒業生に比べ【管理・運營業務】が増加していることがわかった。加えて、【事業所・施設外のソーシャルワーカー等のスーパービジョン、地域連携業務、コンサルテーション業務】に携わる傾向もある。

現在の勤務形態について、学部卒業生ほどではないが、通信教育科及び PGS でも【常勤】雇用形態が減少傾向にあることがわかった。

これらの結果から、卒業後にキャリア形成の傾向として、学部卒業生と比べて通信教育科の卒業生は【社会福祉施設】や【医療機関】に進み、PGS では概ね【社会福祉施設】へと進むことで、【管理・運營業務】、【研究・評価・業務改善業務】の業務に就く傾向があることから、個別支援から組織マネジメントや【教育研究機関】で後進の育成に従事していく傾向が伺える。また、制度政策の変化に伴い、【医療機関】などの現場で勤務しながら通信教育科で新たに社会福祉士や精神保健福祉士の資格取得を目的としている学生が多い可能性が考えられた。また、PGS において実践現場での経験を集約し、更に専門知識を深めることで、専門職としての役割が変化していくターニングポイントとなっている可能性が推察される。勤務形態の動向について、学部卒業生と共に通信教育科及び PGS が卒業後に比べ【常勤】勤務の減少傾向にあるが、これは卒業後に専門職としての役割が広がることで、外部業務や独立などによりによる地域福祉への貢献が増加するためと考えられる。加えて、【教育研究機関】での勤務形態に【常勤（任期あり）】、【非常勤】などの勤務形態が多いためと考えられた。

3. キャリア形成の機会と意識

1) キャリアへの意識

自身のキャリア形成に関しては、「よく考える」「ときどき考える」を合わせると74.4%と極めて高く、主に学部卒業生を対象とした昨年度調査の74.0%と同様の結果と成っている。グループ間の比較では、「ときどき考える」は大きな差を認めないが、「よく考える」は学部卒の21.4%に比して、通信教育科卒43.9%、専門職大学院卒48.1%と大きく異なる。社会人経験を有して通信教育科に進学した者と、現場実践経験を踏まえて専門職大学院に進学した者の、キャリア形成意識の高さを表していると考えられる。一方、逆に「あまり考えない」「まったく考えない」については、両者を合わせ学部卒22.8%、通信教育科卒8.7%、専門職大学院卒6.9%となっており、学部卒者のキャリアへの意識は他の二者に比して低い。

表 3-1 自分のキャリアをより良い物にしようと考えたことがあるか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
よく考える	n	463	428	104	995
	%	21.4%	43.9%	48.1%	29.7%
ときどき考える	n	954	450	94	1498
	%	44.2%	46.2%	43.5%	44.7%
あまり考えない	n	426	78	15	519
	%	19.7%	8.0%	6.9%	15.5%
まったく考えない	n	68	7	0	75
	%	3.1%	.7%	.0%	2.2%
無回答	n	249	11	3	263
	%	11.5%	1.1%	1.4%	7.9%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2) 卒後取得した資格

卒業後に取得した資格については「該当なし」が最も多く 41.4%を占めている。一方、「精神保健福祉士」については 20.6%、「社会福祉士」については 16.8%、「介護支援専門員」については 16.7%が取得している。特に「精神保健福祉士」については、通信教育科卒者で 53.7%という極めて高い値となっており、資格取得を目的とする通信教育科の特徴を表している。「社会福祉士」については、専門職大学院卒者で 25.0%という高い値を示しており、2013 年度末をもって廃止されることとなった社会福祉士受験資格取得課程履修者の専門職大学院修了生に占める割合を示していると考えられる。「介護支援専門員」については、学部卒者が 18.8%と最も高く、他二者の 13.9%、7.9%に比しても高くなっている。「介護福祉士」についても、学部卒者が 6.1%と最も高く、他二者の 4.6%に比しても高い。学部を卒業した後に取得をめざす資格として位置づけられていると考えられる。「主任介護支援専門員」「看護師」は、それぞれ 2.4%、0.7%と低い。なお、「その他」が全体で 13.0%と高い値を示しているが、本調査の項目からは具体的な資格名称は明らかではない。

表 3-2 資格の取得等

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉士	n	348	161	54	563
	%	16.1%	16.5%	25.0%	16.8%
精神保健福祉士	n	144	523	22	689
	%	6.7%	53.7%	10.2%	20.6%
介護支援専門員	n	407	135	17	559
	%	18.8%	13.9%	7.9%	16.7%
主任介護支援専門員	n	42	32	5	79
	%	1.9%	3.3%	2.3%	2.4%
介護福祉士	n	132	45	10	187
	%	6.1%	4.6%	4.6%	5.6%
看護師	n	17	5	1	23
	%	.8%	.5%	.5%	.7%
その他	n	367	57	11	435
	%	17.0%	5.9%	5.1%	13.0%
該当なし	n	1026	265	95	1386
	%	47.5%	27.2%	44.0%	41.4%
無回答	n	155	55	30	240
	%	7.2%	5.6%	13.9%	7.2%
合計	n	2638	1278	245	4161
	%	122.1%	131.2%	113.4%	124.2%

3) キャリア形成に関わる研修会、教育・研究機会の有無

キャリア形成に関わる研修会、教育・研究機会の有無については「成年後見、虐待防止、ホームレス支援、滞日外国人支援、災害支援、触法障害者支援などの専門領域の講習会受講」が21.3%と最も高く、次いで「介護支援専門員実務講習の受講」が14.6%、「学会・協会大会などで研究発表を行った経験」12.9%と続く。これは学部卒者を主な対象とした昨年度の調査と同様の傾向(同選択肢の数値、順に18.4%、15.9%、14.0%)にある。社会福祉士・精神保健福祉士のカリキュラム改正により、現場実習指導者には講習会受講が義務づけられたことを反映し「社会福祉士会・精神保健福祉士協会等が主催する実習指導者講習会の受講」が8.3%と高く(学部卒4.8%、通信教育科卒15.7%、専門職大学院卒10.2%)、一定の経験を有し後進を育成する現場実践家にとっては、極めてニーズの高い教育・研修の機会となっている。次いで「介護支援専門員専門研修Ⅰ及び介護支援専門員専門研修Ⅱの受講の経験」が7.5%と高く、介護保険制度下での教育・研修の機会が活用されていると考えられる。「専門誌において研究報告、実践報告を行った経験」「福祉系大学が行う実践研究に関する研修・講習会を受講した経験」「福祉系大学が行う実践能力向上のための研修・講習会を受講した経験」は、それぞれ6.3%、6.2%、5.4%であり、専門職大学院卒がそれぞれ12.0%、11.1%、8.3%と高かった。一方、「該当するものはない」は38.0%(学部卒45.8%、通信教育科卒24.5%、専門職大学院卒19.9%)となっており、卒業後にキャリア形成に関わる研修会、教育・研究機会を得ていない者が約4割弱を占める結果となっている。これは学部卒者を主対象とする昨年度調査の50.2%よりは低いですが、極めて高い値であり、福祉専門職種のカリヤ形成にかかわる課題を示していると考えられる。

表 3-3 キャリア形成に関わる研修会、教育・研究機会の有無

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
社会福祉士会・精神保健福祉士協会が実施するスーパーバイザー養成研修の受講	n	68	70	8	146
	%	3.1%	7.2%	3.7%	4.4%
社会福祉士会・精神保健福祉士協会等が実施する実習指導者講習会の受講	n	104	153	22	279
	%	4.8%	15.7%	10.2%	8.3%
成年後見、虐待防止、ホームレス支援、滞日外国人支援、災害支援、触法障害者支援などの専門領域の講習会受講	n	361	297	57	715
	%	16.7%	30.5%	26.4%	21.3%
スーパーバイザーから、一定期間、スーパービジョンを受けた経験	n	121	68	14	203
	%	5.6%	7.0%	6.5%	6.1%
学会・協会大会などで研究発表を行った経験	n	278	108	47	433
	%	12.9%	11.1%	21.8%	12.9%
専門誌において研究報告、実践報告を行った経験	n	150	36	26	212
	%	6.9%	3.7%	12.0%	6.3%
科学的根拠にもとづく実践（EBP）プログラムに関する研修・講習会を受講した経験	n	29	31	7	67
	%	1.3%	3.2%	3.2%	2.0%
福祉サービス第三者評価調査者養成研修等を受講	n	42	27	16	85
	%	1.9%	2.8%	7.4%	2.5%
日本医療機能評価機構の評価調査者（サーベイヤー）を務めた経験	n	1	2	0	3
	%	.0%	.2%	.0%	.1%
サービス管理責任者研修	n	0	119	14	133
	%	.0%	12.2%	6.5%	4.0%
介護支援専門員実務研修受講の経験	n	317	141	30	488
	%	14.7%	14.5%	13.9%	14.6%
介護支援専門員専門研修Ⅰ及び介護支援専門員専門研修Ⅱの受講の経験	n	137	98	17	252
	%	6.3%	10.1%	7.9%	7.5%
相談支援専門員実務研修	n	-	82	8	90
	%	-	8.4%	3.7%	2.7%
認定社会福祉士・認証研修	n	-	24	3	27
	%	-	2.5%	1.4%	.8%
認定精神保健福祉士・基幹研修・更新研修	n	-	66	3	69
	%	-	6.8%	1.4%	2.1%
ケアマネジメントリーダー養成研修会受講の経験	n	26	15	1	42
	%	1.2%	1.5%	.5%	1.3%
日本ケアマネジメント学会が認定する認定ケアマネジャーの取得	n	4	7	0	11
	%	.2%	.7%	.0%	.3%
介護技術講習会の受講の経験	n	107	29	5	141
	%	5.0%	3.0%	2.3%	4.2%
福祉系大学が行う実践研究に関する研修・講習会を受講した経験	n	152	31	24	207
	%	7.0%	3.2%	11.1%	6.2%
福祉系大学が行う実践能力向上のための研修・講習会を受講した経験	n	120	43	18	181
	%	5.6%	4.4%	8.3%	5.4%
社大専門職大学院アドバンスソーシャルワーカーの認定資格の取得	n	2	5	7	14
	%	.1%	.5%	3.2%	.4%
社大専門職大学院継続修習制度への登録	n	-	6	32	38
	%	-	.6%	14.8%	1.1%
その他	n	132	76	28	236
	%	6.1%	7.8%	13.0%	7.0%
以上に、該当するものはない	n	990	239	43	1272
	%	45.8%	24.5%	19.9%	38.0%
無回答	n	179	68	18	265
	%	8.3%	7.0%	8.3%	7.9%
合計	n	3320	1841	448	5609
	%	153.7%	189.0%	207.4%	167.4%

4) キャリア形成の状況

「転職の回数が1-2回程度ある」25.1%、「3-5回程度ある」11.2%、「6回以上ある」1.4%を合わせると37.5%あり、「入所施設・通所施設・地域事業所・医療機関・公務員などいくつかの領域の仕事を経験した」者は31.3%いる。「キャリアを向上させることを目的に転職したことがある」は13.4%、「キャリアを向上させることを目的に大学院や大学に入学したことがある」は11.1%、「あなたの経験を買われて、頼まれて転職したことがある」は11.9%いる。「結婚・育児のために転職・離職したことがある」者は10.0%いるが、「育児のために休職・離職した経験がある（同じ職場で復職あるいは復職予定）」は2.3%にとどまっている。キャリア形成途上でのライフイベントに対応した職場環境の乏しさが課題と考えられる。一方「転職の経験はない（同じ職場でキャリア形成）」も24.1%に上っている。

表 3-4 キャリア形成の状況

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
入所施設・通所施設・地域事業所・医療機関・公務員など いくつかの領域の仕事を経験した	n	608	361	78	1047
	%	28.1%	37.1%	36.1%	31.3%
キャリアを向上させることを目的に転職をしたことがある	n	188	211	51	450
	%	8.7%	21.7%	23.6%	13.4%
キャリアを向上させることを目的に大学院や大学に入学 したことがある	n	115	174	82	371
	%	5.3%	17.9%	38.0%	11.1%
あなたの経験を買われて、頼まれて転職したことがある	n	234	138	28	400
	%	10.8%	14.2%	13.0%	11.9%
転職の経験はない（同じ職場でキャリア形成）	n	546	224	38	808
	%	25.3%	23.0%	17.6%	24.1%
転職の回数が1～2回程度ある	n	505	274	62	841
	%	23.4%	28.1%	28.7%	25.1%
転職の回数が3～5回程度ある	n	167	165	44	376
	%	7.7%	16.9%	20.4%	11.2%
転職の回数が6回以上ある	n	12	22	12	46
	%	.6%	2.3%	5.6%	1.4%
育児のため休職・離職した経験がある（同じ職場で復職、 あるいは復職予定）	n	192	64	14	78
	%	8.9%	6.6%	6.5%	2.3%
結婚・育児のために転職・離職したことがある（前問以外）	n	344	119	23	334
	%	15.9%	12.2%	10.6%	10.0%
その他のキャリア形成の経験がある	n	63	39	7	109
	%	2.9%	4.0%	3.2%	3.3%
具体的に	n	53	2	2	57
	%	2.5%	.2%	.9%	1.7%
就職したことがない （家事手伝い・専業主婦などを選択した場合を含む）	n	13	84	16	113
	%	.6%	8.6%	7.4%	3.4%
以上のうち、当てはまるものがない	n	280	35	1	316
	%	13.0%	3.6%	.5%	9.4%
無回答	n	114	16	5	135
	%	5.3%	1.6%	2.3%	4.0%
合計	n	3434	1928	463	5481
		159.0%	197.9%	214.4%	163.6%

5) キャリア形成において必要とされること

キャリア形成をより良くするために必要なこととして「職場の研修機会の充実」をあげる者が24.3%と最も多く、次いで「職場内での適切なスーパービジョン」が23.4%、「職場（上司・同僚）の理解」が21.5%と続いている。「家族の理解」を挙げる者も14.4%と高く、「年間所得のアップ」が12.8%、「専門職・有資格者に対するの評価向上」が7.6%挙げられている。一方キャリア形成のためのハード面では「休日のセミナー開催」10.6%、「通信教育の充実」8.6%、「夜間・週末のリカレント講座開講」7.7%、「通信制大学院の開設」7.5%、「夜間休日の大学院講座開講」7.0%、「保育施設・夜間保育などの子育て支援態勢」7.0%などが挙げられている。キャリア形成を望みながらも、私生活の充実とのワークライフバランスの葛藤、ニーズに応えるハード面での未整備が覗える。

表 3-5 キャリア形成をより良くするために必要なこと

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
職場の研修機会の充実	n	621	160	33	814
	%	28.8%	16.4%	15.3%	24.3%
職場内での適切なスーパービジョン	n	565	176	44	785
	%	26.2%	18.1%	20.4%	23.4%
職場外での適切なスーパービジョン	n	-	165	37	202
	%	-	16.9%	17.1%	6.0%
職場（上司・同僚）の理解	n	520	162	39	721
	%	24.1%	16.6%	18.1%	21.5%
通信教育の充実	n	231	51	7	289
	%	10.7%	5.2%	3.2%	8.6%
通信制大学院の開設	n	147	86	17	250
	%	6.8%	8.8%	7.9%	7.5%
インターネットを活用したe- ランニング	n	143	53	12	208
	%	6.6%	5.4%	5.6%	6.2%
夜間・週末のリカレント講座開講	n	190	53	16	259
	%	8.8%	5.4%	7.4%	7.7%
夜間休日の大学院講座開講	n	165	50	18	233
	%	7.6%	5.1%	8.3%	7.0%
通いやすい地元での出張講座	n	-	140	25	165
	%	-	14.4%	11.6%	4.9%
休日のセミナー開催	n	239	101	14	354
	%	11.1%	10.4%	6.5%	10.6%
家族の理解	n	389	79	16	484
	%	18.0%	8.1%	7.4%	14.4%
遠隔地での出張講座	n	109	-	-	109
	%	5.0%	-	-	3.3%
保育施設・夜間保育などの子育て支援態勢	n	194	35	6	235
	%	9.0%	3.6%	2.8%	7.0%
年間所得のアップ	n	279	121	28	428
	%	12.9%	12.4%	13.0%	12.8%
教育訓練給付制度等の活用	n	108	34	8	150
	%	5.0%	3.5%	3.7%	4.5%
専門職、有資格者に対する評価向上	n	-	202	52	254
	%	-	20.7%	24.1%	7.6%
その他	n	91	32	11	134
	%	4.2%	3.3%	5.1%	4.0%
以上に当てはまるものはない	n	261	39	13	313
	%	12.1%	4.0%	6.0%	9.3%
無回答	n	281	231	43	555
	%	13.0%	23.7%	19.9%	16.6%
合計	n	4533	1970	439	6942
		209.9%	202.3%	203.2%	207.2%

6) 認定社会福祉士制度の認知度

通信教育科と専門職大学院に対しては、認定社会福祉士制度（認定上級社会福祉士制度を含む）に関する認知度と関心度を尋ねた。「この制度を具体的に知っている」は16.3%にとどまり、「名前くらいは聞いたことがある」が49.8%と最も高かった。「聞いたことがない」は30.1%に達しており、福祉専門職の間でも認知度が低いことが窺える。

表 3-6 認定社会福祉士制度（含・認定上級社会福祉士制度）について、どの程度知っているか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
この制度を具体的に知っている	n	-	141	53	194
	%	-	14.5%	24.5%	16.3%
名前くらいは聞いたことがある	n	-	463	130	593
	%	-	47.5%	60.2%	49.8%
聞いたことがない	n	-	335	23	358
	%	-	34.4%	10.6%	30.1%
無回答	n	-	35	10	45
	%	-	3.6%	4.6%	3.8%
合計	n	-	974	216	1190
	%	-	100.0%	100.0%	100.0%

7) 認定社会福祉士制度の関心度

認定社会福祉士制度については、「多少関心がある」が59.5%と最も高い。「大いに関心があり取得を考慮している」は9.3%にとどまり、「関心がない」者が26.6%と多い。

表 3-7 認定社会福祉士制度について、どの程度ご関心をもっているか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大いに関心があり取得を考慮している	n	-	99	12	111
	%	-	10.2%	5.6%	3.3%
多少関心がある	n	-	582	126	708
	%	-	59.8%	58.3%	21.1%
関心がない	n	-	250	67	317
	%	-	25.7%	31.0%	9.5%
無回答	n	-	43	11	54
	%	-	4.4%	5.1%	1.6%
合計	n	-	974	216	1190
	%	-	100.0%	100.0%	100.0%

8) まとめと考察

キャリア形成に関わる意欲をもつ者が4分の3を占め、卒業後の資格取得の意欲も旺盛で精神保健福祉士、社会福祉士、介護支援専門員等の資格取得している者も多い。専門職としてのスキルアップを目指すだけでなく、制度に準拠したキャリア形成が志向されている。キャリア形成に関わる教育・研修・研究の場としては、専門領域の講習会受講が2割強と最も高く、介護支援専門員実務講習受講、学会・協会大会などでの研究発表も行われている。一定の経験を有し後進を育成する現場実践家にとっては、社会福祉士・精神保健福祉士のカリキュラム改正による実習指導者講習会の受講ニーズも高くなっている。転職は約3分の1の者が経験しており、複数の領域にわたる転職も多い。キャリア形成に必要な条件として、職場内の理解や研修・教育機会の充実を求める声が多く、私生活の充実とのバランスの葛藤を覗わせる回答も見られる。一方、認定社会福祉士・認定上級社会福祉士制度への認知度・関心度は概して低く、卒業後にキャリア形成に関わる研修・教育・研究機会を得ていない者が約4割弱に達する。キャリア形成の意欲はあっても、実際に学びの場を確保できていない現実とのギャップが存在する。福祉専門職の着実なキャリア形成を図るには、職場と連携した研修・教育・スーパービジョンの機会の設定、通信制を含む夜間・週末・休日の講座開設などのハード面や環境条件の整備が必要と考えられる。

4. キャリア形成状況への満足度

1) キャリア状況の満足度

現在のキャリアの状況に関する満足度を表 4-1 で示している。3 群ともに「どちらかという満足」が多くなっている。「満足」「どちらかという満足」を合わせると、学部では 52.4%、通信教育科では 59.1%、専門職大学院では 62.5%となっており、専門職大学院が最も満足度が高くなっている。

一方、「不満」「どちらかという不満」を合わせると、学部では 7.2%、通信教育科では 12.8%、専門職大学院では 11.1%となっており、若干ながら通信教育科が高くなっている。

表 4-1 現在のキャリア状況の満足度

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
満足	n	469	212	53	734
	%	21.7%	21.8%	24.5%	21.9%
どちらかという満足	n	664	363	82	1109
	%	30.7%	37.3%	38.0%	33.1%
どちらともいえない	n	581	254	54	889
	%	26.9%	26.1%	25.0%	26.5%
どちらかという不満	n	119	79	15	213
	%	5.5%	8.1%	6.9%	6.4%
不満	n	36	46	9	91
	%	1.7%	4.7%	4.2%	2.7%
無回答	n	291	20	3	314
	%	13.5%	2.1%	1.4%	9.4%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2) キャリア形成状況への満足度

それぞれの課程卒業から、現在までのキャリア形成に関する満足度を表 4-2 で示している。3 群ともに「どちらかという満足」がもっとも多くなっている。「満足」「どちらかという満足」を合わせると、学部では 47.3%、通信教育科では 50.6%、専門職大学院では 58.8%となっており、専門職大学院が最も満足度が高くなっている。

一方、「不満」「どちらかという不満」を合わせると、学部では 10.5%、通信教育科では 14.3%、専門職大学院では 7.4%となっており、若干ながら通信教育科が高くなっている。

表 4-2 キャリア形成状況に対する満足度

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
満足	n	311	135	35	481
	%	14.4%	13.9%	16.2%	14.4%
どちらかという満足	n	711	357	92	1160
	%	32.9%	36.7%	42.6%	34.6%
どちらともいえない	n	771	306	71	1148
	%	35.7%	31.4%	32.9%	34.3%
どちらかという不満	n	186	103	11	300
	%	8.6%	10.6%	5.1%	9.0%
不満	n	40	36	5	81
	%	1.9%	3.7%	2.3%	2.4%
無回答	n	141	37	2	178
	%	6.5%	3.8%	.9%	5.3%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

3) まとめと考察

キャリアに関する現在の満足では、各グループとも「満足」「どちらかという満足」が 50%を超えているが、学部と専門職大学院とを比較すると、専門職大学院の方が 10.1%も高くなっている。これは専門職大学院でキャリア形成の取り組みができたというデータの裏付けである。

また、それぞれの課程の卒業後から現在までのキャリア形成の満足度では、「満足」「どちらかという満足」を合わせると学部では 50%を下回り、通信教育科でも 50.6%とぎりぎり 50%台となっている。これは、キャリア形成に関しては、これからも取り組みたいという表れであり、大学も積極的にキャリア形成教育プログラムの提案を行っていく必要性を示唆している。

5. 大学が行うキャリア形成教育プログラムへの関心

1) 社大が提供するキャリア形成教育プログラムへの関心

通信教育科卒業生が望むキャリア形成教育プログラムの中で最も多いものが、リカレント講座（50.6%）であった。これは大変興味深い数値であり、専門職大学院への興味・関心が高いことの表れであると言える。通信教育科卒業生への専門職大学院関連の情報提供を積極的かつ効果的におこなうことが必要である。また研究科大学院への関心も19.8%と高く通信教育科在学中から本学の両大学院との共同企画（コラボレーション）を考えるなどの対策を考える必要がある。学内学会、SPS フォーラムを利用してゼミ体験など大学院の授業を身近に感じる企画を考えてみてはどうか。

表 5-1 社大が提供するキャリア形成教育プログラムの中で関心のある取り組み

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
専門職大学院	n	453	-	-	453
	%	21.0%	-	-	13.5%
研究大学院	n	330	314	55	699
	%	15.3%	32.2%	25.5%	20.9%
通信教育科	n	483	193	32	708
	%	22.4%	19.8%	14.8%	21.1%
リカレント講座	n	826	493	131	1450
	%	38.2%	50.6%	60.6%	43.3%
学内学会	n	226	143	47	416
	%	10.5%	14.7%	21.8%	12.4%
ホームカミングデイ	n	133	-	-	133
	%	6.2%	-	-	4.0%
その他	n	53	18	7	78
	%	2.5%	1.8%	3.2%	2.3%
以上のうち関心のあるものはない	n	602	191	27	820
	%	27.9%	19.6%	12.5%	24.5%
無回答	n	165	64	16	245
	%	7.6%	6.6%	7.4%	7.3%
合計	n	3271	1416	315	5002
	%	151.4%	145.4%	145.8%	149.3%

2) キャリア形成への取り組みがめざすものへの関心ある取り組み

通信教育科の学生の特徴が表れている結果となった。同業他職種、異業種から入学してくる学生が多いことから、キャリア形成に向けては専門的知識および技術の取得を望む者が半数近くを占めていることは納得のできる数値である。またスーパーバイザーとしての能力、経営管理能力、プログラム評価などアプローチ法、実践的研究能力の習得に 20-36% の卒業生が関心を示している。基礎的な知識の再確認から実践的な研究方法の習得まで、幅広いリカレント教育の場に関心を寄せていることが読み取れる。

表 5-2 卒業生キャリア形成への取り組みがめざすものうち特に関心あるもの

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
スーパーバイザーとしての能力の習得	n	566	348	80	994
	%	26.2%	35.7%	37.0%	29.7%
経営・管理能力の習得	n	444	233	74	751
	%	20.6%	23.9%	34.3%	22.4%
実践的研究能力の習得	n	416	227	66	709
	%	19.3%	23.3%	30.6%	21.2%
プログラム評価など実践プログラム改善・向上のための アプローチ法の習得	n	317	196	36	549
	%	14.7%	20.1%	16.7%	16.4%
専門的知識の習得	n	979	521	89	1589
	%	45.3%	53.5%	41.2%	47.4%
専門的技術の習得	n	930	483	70	1483
	%	43.1%	49.6%	32.4%	44.3%
認定社会福祉士【問11・問12参照】	n	-	189	26	215
	%	-	19.4%	12.0%	6.4%
認定上級社会福祉士【問11・問12参照】	n	-	108	20	128
	%	-	11.1%	9.3%	3.8%
資格の取得	n	505	57	14	576
	%	23.4%	5.9%	6.5%	17.2%
これまでと異なる進路の模索	n	165	72	16	253
	%	7.6%	7.4%	7.4%	7.6%
子育て後の職場復帰のための知識・技能の習得	n	247	40	9	296
	%	11.4%	4.1%	4.2%	8.8%
その他	n	23	19	2	44
	%	1.1%	2.0%	.9%	1.3%
以上のうち当てはまるものはない	n	244	70	14	328
	%	11.3%	7.2%	6.5%	9.8%
無回答	n	251	39	21	311
	%	11.6%	4.0%	9.7%	9.3%
合計	n	5087	2602	537	8226
	%	235.5%	267.1%	248.6%	245.6%

3) キャリア形成と専門職大学院

①専門職大学院で学んだことへの満足度

専門職大学院に学んだ修了生の満足度を問うと「満足」38.9%、「どちらかという満足」44.0%、合わせて82.9%に達し満足度は高いと評価できる。一方で「どちらともいえない」10.2%、「どちらかという不満」5.1%、「不満」0.9%、合わせて16.2%のネガティブな回答も見受けられる。初期の未成熟な専門職大学院のカリキュラムが、等しく院生のキャリア形成に役立っていると実感されていない現実もある。

表 5-3 専門職大学院で学んで満足しているか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
満足	n	-	-	84	84
	%	-	-	38.9%	38.9%
どちらかという満足	n	-	-	95	95
	%	-	-	44.0%	44.0%
どちらともいえない	n	-	-	22	22
	%	-	-	10.2%	10.2%
どちらかという不満	n	-	-	11	11
	%	-	-	5.1%	5.1%
不満	n	-	-	2	2
	%	-	-	.9%	.9%
無回答	n	-	-	2	2
	%	-	-	.9%	.9%
合計	n	-	-	216	216
	%	-	-	100.0%	100.0%

②専門職大学院で学んだことでの入学目的達成度

専門職大学院で学ぶことで達成できた入学目的としては、「専門的知識の習得」が69.4%と最も高い。「実践経験の体系化・理論化」37.0%、「資格の取得（社会福祉士）」35.2%、「専門的技術の習得」33.8%などが、専門職大学院での学びの成果として示されている。また、専門職大学院に入学することにより「社大での人脈・ネットワークの形成」や「受講生同士の人脈・ネットワーク形成」が得られたとする者が、それぞれ38.9%、36.1%と高い割合を示している。ともに専門職大学院で学んだ結びつきが、その後の専門職としてのネットワーク形成に寄与していると考えられる。一方で「現場・地域を変える力量の形成」「経営・管理能力の習得」「スーパーバイザー能力の習得」については、それぞれ16.7%、14.4%、12.5%にとどまっており、創設以来10年間にわたって改革されてきた専門職大学院の教育カリキュラムの課題を示していると考えられる。なお、「これまでと異なる進路の模索」の23.6%は、福祉領域以外からの社会人入学者の回答と考えられる。

表 5-4 専門職大学院で学んだことで入学目的に照らして良かったこと、達成できたことは何か

	グループ			合計
	学部	通信	PGS	
専門的知識の習得	n	-	-	150
	%	-	-	69.4%
専門的技術の習得	n	-	-	73
	%	-	-	33.8%
資格の取得(社会福祉士)	n	-	-	76
	%	-	-	35.2%
スーパーバイザー能力の取得	n	-	-	27
	%	-	-	12.5%
経営・管理能力の習得	n	-	-	31
	%	-	-	14.4%
実践経験の体系化・理論化	n	-	-	80
	%	-	-	37.0%
社大での人脈・ネットワークの形成	n	-	-	84
	%	-	-	38.9%
受講生同士の人脈・ネットワークの形成	n	-	-	78
	%	-	-	36.1%
現場・地域を変える力量の形成	n	-	-	36
	%	-	-	16.7%
これまでと異なる進路の模索	n	-	-	51
	%	-	-	23.6%
その他	n	-	-	3
	%	-	-	1.4%
無回答	n	-	-	1
	%	-	-	.5%
合計	n	-	-	690
	%	-	-	319.4%

4) キャリア形成と通信教育科

①通信教育科で学んだことへの満足度

【満足】【どちらかという満足】を併せて 87.9%と 9 割近くの学生が高い満足度を示している。入学目的の筆頭理由である国家資格の取得が叶ったことがその要因と思われるが、国家資格取得以外の要因は表 5 - 6 の結果分析に明るい。

表 5-5 通信教育科で学んで満足しているか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
満足	n	-	424	-	424
	%	-	43.5%	-	43.5%
どちらかという満足	n	-	432	-	432
	%	-	44.4%	-	44.4%
どちらともいえない	n	-	81	-	81
	%	-	8.3%	-	8.3%
どちらかという不満	n	-	23	-	23
	%	-	2.4%	-	2.4%
不満	n	-	4	-	4
	%	-	.4%	-	.4%
無回答	n	-	10	-	10
	%	-	1.0%	-	1.0%
合計	n	-	974	-	974
	%	-	100.0%	-	100.0%

②通信教育科で学んだことでの入学目的達成度

国家資格取得以外の理由として、専門的知識の取得が66.6%と最も高い。これは実習先を含め、本学が持つ講師陣の教育内容の質の高さがその理由であると思われる。スクーリング後のアンケートにもこれらの感想が多く寄せられていたが、数的に実証された結果となった。また社大の人脈を挙げている卒業生が30%いることも、本学の強みとして実証された。一方で現場・地域を変える力量の形成の項目に関しては8.4%と低い値を示しており、一方向性の講義が中心で、双方向・対面式の教育場面が少ない通信教育科の限界を示している。

表 5-6 通信教育科で学んだことで、入学目的に照らして良かったこと、達成できたことは何か

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
資格の取得（精神保健福祉士）	n	-	879	-	879
	%	-	90.2%	-	26.2%
専門的知識の習得	n	-	649	-	649
	%	-	66.6%	-	19.4%
専門的技術の習得	n	-	196	-	196
	%	-	20.1%	-	5.9%
社大での人脈・ネットワークの形成	n	-	98	-	98
	%	-	10.1%	-	2.9%
受講生同士の人脈・ネットワークの形成	n	-	190	-	190
	%	-	19.5%	-	5.7%
これまでと異なる進路の模索	n	-	142	-	142
	%	-	14.6%	-	4.2%
現場・地域を変える力量の形成	n	-	82	-	82
	%	-	8.4%	-	2.4%
その他	n	-	26	-	26
	%	-	2.7%	-	.8%
無回答	n	-	7	-	7
	%	-	.7%	-	.2%
合計	n	-	2269	-	2269
	%	-	233.0%	-	233.0%

③通信教育科在学中にあれば良かったと思うオプション項目

最も高かった項目が【施設・関係機関の見学】で38.3%であった。旧カリキュラムでの実習は一か所で90時間と少なく、他の機関の見学、特に精神科病院を見てみたいという要望は多かった。新カリキュラムになり地域事業所に加え精神科病院の実習が必修になったことから、今後のこの要望の数値は下がるものと思われる。次いで【社大学部・専門職大学院・研究科大学院の聴講】【社大講師陣による特別講義】と実現可能な要望が続く。【ゼミ形式での学び】は一般養成課程のオプションコースで具体化された。国試対策は今年度より学内国試対策委員会と強い連携のもと、対策講座の回数を増やす、外部業者に委託するなど対策を強化している。

表 5-7 通信教育科在学中にあれば良かったと思うオプション項目

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
国家試験対策に関するもの	n	-	260	-	260
	%	-	26.7%	-	7.8%
就職活動に関するもの	n	-	124	-	124
	%	-	12.7%	-	3.7%
社大講師陣による特別講義	n	-	304	-	304
	%	-	31.2%	-	9.1%
施設・関係機関見学	n	-	373	-	373
	%	-	38.3%	-	11.1%
ゼミ形式の少人数での学び	n	-	343	-	343
	%	-	35.2%	-	10.2%
社大学部・専門職大学院・研究科大学院の講義の聴講	n	-	349	-	349
	%	-	35.8%	-	10.4%
お住まいの地域への出前講座	n	-	160	-	160
	%	-	16.4%	-	4.8%
その他	n	-	17	-	17
	%	-	1.7%	-	.5%
無回答	n	-	48	-	48
	%	-	4.9%	-	1.4%
合計	n	-	1978	-	1978
	%	-	203.1%	-	203.1%

④社大精神保健福祉士養成課程関係者フォーラム(S-PSW フォーラム)の認知度

SPS フォーラムに関しては【知らなかった】が 64.9%と多く、学内協力体制を強化し周知の徹底を図る必要がある。

表 5-8 社大精神保健福祉士養成課程関係者フォーラム (S-PSW フォーラム) のことを知っていたか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
参加した	n	-	46	-	46
	%	-	4.7%	-	4.7%
知っていたが参加したことがない	n	-	177	-	177
	%	-	18.2%	-	18.2%
名前を聞いたことがある	n	-	117	-	117
	%	-	12.0%	-	12.0%
知らなかった	n	-	632	-	632
	%	-	64.9%	-	64.9%
無回答	n	-	2	-	2
	%	-	.2%	-	.2%
合計	n	-	974	-	974
	%	-	100.0%	-	100.0%

表 5-9 「S-PSW フォーラム」に参加したいと思うか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
参加したい	n	-	65	-	65
	%	-	6.7%	-	6.7%
都合が合えば参加したい	n	-	285	-	285
	%	-	29.3%	-	29.3%
まずは情報が欲しい	n	-	313	-	313
	%	-	32.1%	-	32.1%
わからない	n	-	204	-	204
	%	-	20.9%	-	20.9%
参加したくない	n	-	55	-	55
	%	-	5.6%	-	5.6%
無回答	n	-	52	-	52
	%	-	5.3%	-	5.3%
合計	n	-	974	-	974
	%	-	100.0%	-	100.0%

6) まとめと考察

表 5-1、表 5-2 から通信教育科の学生も社会福祉学部・専門職大学院修了生と同様にキャリア形成に関心が高いことが伺える。通信教育科の特徴として専門知識・技術の習得の関心が高い。これは異業種・同業他職種から入学してくる学生が多いことから、資格取得に加えてソーシャルワークの基礎から PSW としての価値・倫理・実践的な知識を学ぶことを目的に社大に入学する学生が多いことに起因している。また表 5-1 より社大が提供するキャリア形成プログラムへの関心のうち、60.6%の卒業生が専門職大学院のリカレント講座へ関心を示している。現在通信教育科卒業後の進路として通信教育科から専門職大学院への推薦入試制度を設けているが、在学中から専門職大学院の授業の聴講などをおこなうなど、さらに積極的な取り組みをおこなう必要があるのではないかと考えられる。同じく研究科大学院への関心も 32.2%と高く、在学中から両大学院をより身近に感じることができる対策を講じる必要があるのではないかと考えられる。その根拠として表 5-7 に、通信養育科在学中にあったら良かったと思うオプションコースの項目には、【社大専攻部・専門職大学院・研究科大学院の聴講】【社大講師陣による特別講義】および【ゼミ形式での学び】がそれぞれ 30%-40%の割合で挙げられており、潜在的なニーズがあるとして捉えても良いのではないかと考えられる。さらに何らかの優遇措置を講じることができれば、通信教育科、両大学院ともメリットが生まれるのではないかと考えられる。

表 5-5 から本学通信教育科の満足度は非常に高く 9 割近くの卒業生が満足している。国家資格取得という目的が達成できていることに起因すると推察されるが、表 5-6 の結果から国試合格プラスアルファの要因がありそれが高い満足度を示しているのではないかと考えられる。表中、専門的知識・技術の習得、ネットワークの形成、これまでと異なる進路の模索ができていたことが挙げられており、これが満足度の高さへとつながっていると思われる。

この満足度の高さはすなわち、本学がおこなうリカレント教育・キャリア形成への取り組みへの期待度の表れと捉えることができる。またこれだけの支持率があることから、いささかチャレンジングな取り組みであっても修正を重ねながら積極的に展開していく基盤は形成されているのではないかと考えられる。SPS フォーラムの周知度の低さに見られるように、興味はあっても情報にアクセスする機会がないことが明らかになり、戦略的に広報を打つことで通信卒業生の中にある潜在的なニーズを呼びこす可能性は高いと言える。

SPS フォーラム、学内学会でのホームカミングデイ、学部卒業生の勉強会など通信教育科精神保健福祉士養成課程卒業生が、卒後社大と関わる機会は充実してきている。一方でそれぞれの取り組みが未整理で施行されているため、今一つ効果的な取り組みとなっていない。この調査結果を分析する中で、それぞれの取り組みの目的と社大がおこなうキャリア形成教育プログラムとの間には相関関係があることが示唆された。ゆえに現在行っている 3 つの取り組みを、今後社大がおこなう精神保健福祉領域のキャリア形成教育プログラムを具現化する場と捉えても良いのではないかと考える。

今回の調査で顕著に明らかになったこととしては、通信教育科の卒業生は、専門職大学院および研究科大学院に強い関心があり、そこで行われている教育体験を望んでいることである。この潜在的ニーズをキャリア形成教育にどのように生かしていくのか今後の課題として挙げられるが、それを具現化する基盤はできておりプロジェクトチームをつくるなど、学内コンセンサスを得ることが必要となるであろう。

7) 自由記述回答の分析

①自由記述回答に着目する意義

今回のアンケート調査において自由記述回答を考察することは、回答者の職場での経験や思いが多面的に現れている事が想定され、「生の言葉」で表現されている個別の回答からは、より詳細に具体的に検証しようとする目的からは、有益な情報提供が得られるデータであり、また、適切に分析することによって、選択肢式回答からだけでは見落としがちな傾向を明らかできる可能性があると考え、補足する資料として意義のあるものと考えた。そこで、通信教育科と専門職大学院の自由記述回答の卒業生キャリア形成の取り組みに関する回答から、EBPへの関心度に関連すると思われる要因に着目し、自由記述回答を意味のあるまとまりに分け、意見の主題を分類して関心領域を以下のように抽出することで回答者の傾向を考察した。

具体的には、カテゴリーとして大分類として「学びへの関心」と「つながることへの関心」の二つに分類した。

通信教育科では、大分類のその下位にキーワードとして、「学びへの関心」から「リカレント教育の方法」「大学院のあり方」「日本社会事業大学への期待」を、「つながることへの関心」のキーワードとして「情報」と「ネットワーク作り」を抽出した。

専門職大学院では、大分類のその下位にキーワードとして、「学びへの関心」から「大学院教育のシステムについて」「大学院教育について」「日本社会事業大学への期待」を、「つながることへの関心」のキーワードとして「情報」と「ネットワーク作り」を抽出した。自由記述回答は、「社大が行う卒業生キャリア形成のための取り組みが、皆さま方のより役に立つにはどのようなことが必要とお考えになりますか。あなたのお考えをお聞かせいただけると幸いです。」という質問文のもと全員に尋ねた。

②通信教育科の自由記述回答

通信教育科の自由記述への回答者は260人であった。

学びへの関心

学びへの関心についての記述は過半数が高い関心を示している。以下のような3つのキーワードで分類する事ができた。

リカレント教育の方法

多様なニーズにこたえられるリカレント教育の受講システムとして、働きながら学びを継続させるプログラムへの要望が多かった。特に、日本社会事業大学のある清瀬や文京キャンパスへ通学することの難しい回答者から、一番多かったのが出前（出張）講座への希望だった。さらに、公開講座、Eラーニング、県単位でのワークショップなど、学ぶための場所、時間や費用への配慮を望む声も複数あった。

「他県在住で子育て中のため、地元で講座などをひたいてもらえると参加しやすい」

「通いやすい条件、清瀬キャンパスのみならず複数の会場、夜間や週末の講座」

「卒業生が他地域に広がっている。それぞれが要求する内容も多岐にわたると思われるので、それが満たすことのできる方法を見つけてほしい」

「行きたい企画があっても、九州東京間の時間と費用がネックになります」

「Eラーニングだと全国の対象者が参加しやすく、質も上がりやすいのでは？・・・」

一方フォーラムへの肯定的な意見が3名からあり、また2名が参加したいと思っていることから、学びの場のあり方のひとつとして卒業生の中で価値のあるイベントとして認識されていると考えられる。今後は多様なニーズにこたえられるリカレント教育のひとつとしてフォーラムを位置づけて、充実を図る事が望まれる。

「フォーラムは大変よい。いろいろな意味で文化の蓄積、想像になる」

「まず、S-SPWフォーラムに参加してみたいと思います」

インターネットの充実した活用を望む声も多くあり、特に講座・講義や卒業生支援を望む声が多かった。

「インターネットを活用し、・・・卒業後のフォローの窓口で相談ができたりすると、キャリア形成の伴走者として社大を意識できる。」

大学院のあり方

通信教育科の自由記述回答では、10名が専門職大学院について回答していた。その中の7名が通信制を望んでいる。また、その回答から「切望している」「ずっと願っている」「本当に行きたい」「強く希望しています」など強く希望する言葉があったことから「大学院」に対する思いの強さを反映した結果であると解釈される。

「通信制の大学院ができたらいとずっと願っています」

「…大学のような通信制の大学院の開設を切望します」

一方大学院に行けないとして、地方在住の回答者から「断念した」というような言葉があり、現在の大学院のあり方では、地方在住者、時間、経済的に限られた子育て世代や福祉の実践を行っている忙しい人が学びにくい大学となっていることが読み取れる。学ぶ意欲のあり、仕事にも人生においても一番忙しい世代だからこそ、卒業後は母校への期待が大きいという解釈ができ、それに答える大学院のあり方を検討する必要があると考えられる。

日本社会事業大学への期待と不満

日本社会事業大学への期待としては、福祉行政や政治への働きかけを希望する声があった。

「・・・政治に強く働きかけを行い。資格取得者への地位向上と待遇向上を積極的に行うべきです」

③専門職大学院

専門職大学院からの自由記述に72名の回答があった。

学びへの関心

大学院のシステム

専門職大学院からの回答の中で、通信教育科と同じく仕事との両立のために柔軟なシステムを望む声が多数あった。さらに卒業生や福祉職のキャリア形成のためには、交通の利便性、情報を収集しやすい方法などへの工夫や、集中講義、東京から離れている人たちへ

の継続的な学びへの支援を求める声が多かった。また、科目等履修制度の充実や現場への出張授業（職員研修）など具体的な案の提示があった。

「仕事しながらということを考えると、限られた時間の中で効率的に学べることも大事だと思う」

「スキルアップ講座は参加しやすい場所と値段が必須と思います」

「A D S W習得後のステップがもっと具体的に示されるといいと思う」

大学院の教育について

専門職大学院の教育について、物足りなさ、質の向上を望む声があった。

「教員の質の向上（研究と教育は違う）、専門職大学院の学生は一定レベル以下は入学させない事」

「院レベルの内容を提供するために講師陣へのご指導の強化が必要」

また、授業内容について、専門領域ごとに対象を絞ったセミナー、援助技術中心、受験対策中心でなく、社会福祉の本質論や理論の充実を望むなど、専門職大学院への質の高い教育への期待の大きさが伺われた。

日本社会事業大学への期待

通信教育科と同じく、制度・政策などの策定や改正など福祉の根本にかかわる部分に日本社会事業大学が積極的に関わってほしいという声があった。「福祉の基本に関わることへ日本社会事業大学のソーシャルアクションを求める」「日本社会事業大学の卒業生が派遣されて社会福祉の知識を広める場を求める」「社会に求められる福祉実践者を輩出することが、・・・社大の使命ではないか」

など福祉向上のために社会的責任をより強く意識し、実際に社会活動する事を求められていると考えられる。

④通信教育科、専門職大学院共通

つながることへの関心

通信教育科の回答の半数が、「ネットワーク作り」「情報」に強い関心を示した。ネットワーク作りについては、インターネットを使ったつながり、ネットワーク形成のためのイベントワークショップ、定期的な交流会、各地域で小集団のネットワークなど具体的な案がでた。

一方、専門職大学院では、通信教育科より少ない回答だったが、卒業生のネットワーク作り、職種ごとのネットワークづくり、人脈の形成など実際の仕事に役立つつながりを作りたいとの回答が目立った。

情報に関しては有料でもいいからできるだけいろいろな情報がほしい、最新の情報が欲しい、専門の情報が欲しいという回答が通信教育科、専門職大学院共に複数あった。

⑤考察

今回の自由記述回答の分析から、通信教育科の回答からは福祉のキャリアを積み上げたいという思いを感じた、そしてそのために時間の捻出や経済的な負担などいろいろ苦勞を重ねている様子が伺えた。キャリア形成のために日本社会事業大学へ期待を持っているが、現状のシステムに満足していない事、次のステップとして専門職大学院を考えている人もいるが仕事や家庭との両立が難しいと考えている人がいる事から、夜間、週末、休日の講座開講、インターネットを活用した講座や講習会、などリカレント教育環境の整備を今後図る必要があり、積極的に柔軟なキャリア形成教育プログラムの提案を行っていくことが課題としてあげられると考える。

一方、専門職大学院の回答からは、大学院教育の質についての回答が目立ったことから、質の高い専門的知識をどのように提供できるか、大学院卒業後のキャリア形成教育プログラムの構築や社会的に影響力を持つ人材の輩出などを考えた大学院教育の構築、さらに日本社会事業大学のネットワーク資源を活かした福祉現場との連携など、福祉専門職を養成する大学院の役割の再検討や、学生、卒業生の必要に対応した学習・教育体制への改革の必要性が示唆された。

6. 根拠に基づく実践（EBP）・プログラム評価への関心

1)「根拠に基づく実践(EBP)」プログラムの認知度(表 6-1)

いずれの群でも EBP を「ほとんど知らない」と回答した者の割合が最も多く、とくに学部および通信教育科の卒業生は半数あるいはそれ以上を占めた。専門職大学院修了生は、研修会や授業で学んで知っている者（15.3%）や、本や雑誌で読んだことがありある程度知っている者（16.7%）の割合が、他の群よりもやや多かった。

いずれかの EBP を、実際に取り組んだ経験があり具体的に知っている者の割合は、いずれの群においてもおよそ 1-2%であった。

表 6-1 「根拠に基づく実践（EBP）」プログラムについてどの程度知っているか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
いずれかのプログラムに実際に取り組んだ経験があり具体的に知っている	n	29	23	5	57
	%	1.3%	2.4%	2.3%	1.7%
研修会や授業で学んで知っている	n	79	91	36	206
	%	3.7%	9.3%	16.7%	6.1%
本や雑誌で読んだことがあり、ある程度知っている	n	135	88	33	256
	%	6.3%	9.0%	15.3%	7.6%
名前くらいは知っている	n	322	243	61	626
	%	14.9%	24.9%	28.2%	18.7%
ほとんど知らない	n	1399	487	69	1955
	%	64.8%	50.0%	31.9%	58.4%
無回答	n	196	42	12	250
	%	9.1%	4.3%	5.6%	7.5%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

2) EBP プログラムを学んだ経験 (表 6-2)

いずれの群でも、社会生活技能訓練 (SST) が最も多く選択されたが、学部卒業生は 10% 未満と他の群に比して少なかった。通信教育科卒業生においては、家族心理教育 (15.2%)、包括的ケアマネジメント・ACT (17.8%) が、他の群に比べて多く選択された。

その他のほとんどのプログラムは、いずれの群でも選択した者は 1% 未満であった。

表 6-2 研修会や授業で学んだ経験、実際に取り組んだ経験のある EBP プログラム

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
家族心理教育	n	95	148	20	263
	%	4.4%	15.2%	9.3%	7.9%
包括型ケアマネジメントACT	n	97	173	23	293
	%	4.5%	17.8%	10.6%	8.7%
援助付き雇用プログラム	n	67	70	12	149
	%	3.1%	7.2%	5.6%	4.4%
社会生活技能訓練SST	n	202	344	64	610
	%	9.4%	35.3%	29.6%	18.2%
認知症に対する認知刺激セラピー (CST)	n	25	20	7	52
	%	1.2%	2.1%	3.2%	1.6%
若年性認知症に対する就労リハビリテーションプログラム	n	6	6	0	12
	%	.3%	.6%	.0%	.4%
児童・青年の反社会的行動に対するマルチシステム セラピー(MST)	n	10	7	0	17
	%	.5%	.7%	.0%	.5%
動機付け面接	n	76	83	16	175
	%	3.5%	8.5%	7.4%	5.2%
薬物依存に対するマトリックス・モデル	n	8	26	1	35
	%	.4%	2.7%	.5%	1.0%
思春期問題に対するビッグブラザー・ビッグシスター 指導教育プログラム	n	17	7	2	26
	%	.8%	.7%	.9%	.8%
思春期自殺予防プログラムCARE	n	6	9	0	15
	%	.3%	.9%	.0%	.4%
その他	n	54	14	4	72
	%	2.5%	1.4%	1.9%	2.1%
無回答	n	1768	532	128	2428
	%	81.9%	54.6%	59.3%	72.5%
合計	n	2431	1439	277	4147
	%	112.5%	147.7%	128.2%	123.8%

3) EBP プログラムの実践での活用における意識 (表 6-3)

学部卒業生は EBP が「役に立つかどうかよく分からない」と認識している者が最も多く (34.9%)、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生は、「ある程度役に立つ」と認識している者が最も多かった。「大変役に立つ」および「ある程度役に立つ」と認識している者を合わせると、学部卒業生では約 30%であったが、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生では 50%以上であった。

表 6-3 EBP プログラムは、支援の必要な利用者の方やご家族にとって、どの程度役に立つか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大いに役に立つ	n	170	171	35	376
	%	7.9%	17.6%	16.2%	11.2%
ある程度は役に立つ	n	493	397	84	974
	%	22.8%	40.8%	38.9%	29.1%
役に立つかどうかよく分からない	n	754	295	68	1117
	%	34.9%	30.3%	31.5%	33.3%
役に立つかどうか疑問がある	n	21	9	3	33
	%	1.0%	.9%	1.4%	1.0%
無回答	n	722	102	26	850
	%	33.4%	10.5%	12.0%	25.4%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

4) EBP プログラム研修等への参加希望 (表 6-4)

本学で EBP プログラムに関する研修会等を開催した場合に、参加を希望する者 (「大いにそう思う」と「そう思う」の回答者) は、通信教育科卒業生が 72.2%と最も多く、次いで、専門職大学院修了生 (65.7%)、学部卒業生 (38.4%) であった。他方、参加意向の低い者 (「あまりそう思わない」と「そう思わない」の回答者) は学部卒業生が約 40%を占め、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生の約 2 割と比べて多かった。

表 6-4 EBP プログラムの研修や関連する技術講習が企画された場合、参加したいか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大いにそう思う	n	112	148	29	289
	%	5.2%	15.2%	13.4%	8.6%
そう思う	n	717	555	113	1385
	%	33.2%	57.0%	52.3%	41.3%
あまりそう思わない	n	493	159	40	692
	%	22.8%	16.3%	18.5%	20.7%
そう思わない	n	420	42	10	472
	%	19.4%	4.3%	4.6%	14.1%
無回答	n	418	70	24	512
	%	19.4%	7.2%	11.1%	15.3%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

5) EBP プログラム等の実施・普及活動への関心(表 6-5)

EBP プログラム等の実施・普及活動への関心の程度の傾向は、EBP プログラムに関する研修等への参加意向と同様の傾向が認められた。すなわち、実施・普及等の活動に関わりたい（直接的または間接的に）と回答した者（「大いにそう思う」と「そう思う」の回答者）の割合は、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生では約半数を占めたが、学部卒業生は約 4 分の 1 であった。関わりたいと思わない者（「あまりそう思わない」と「そう思わない」の回答者）の割合は、学部卒業生では約半数を占めた。

表 6-5 EBP プログラム等の実施・普及などの活動に関わりたいか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大いにそう思う	n	69	120	25	214
	%	3.2%	12.3%	11.6%	6.4%
そう思う	n	567	514	112	1193
	%	26.3%	52.8%	51.9%	35.6%
あまりそう思わない	n	649	210	43	902
	%	30.0%	21.6%	19.9%	26.9%
そう思わない	n	442	51	10	503
	%	20.5%	5.2%	4.6%	15.0%
無回答	n	433	79	26	538
	%	20.0%	8.1%	12.0%	16.1%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

6) EBP プログラムへの考え(表 6-6)

EBP プログラムが「大切なことなので自らそのように実践したい」と認識した者の割合は、通信教育科卒業生（40.0%）および専門職大学院修了生（38.0%）では最も多くを占めた。学部卒業生は「よく分からない」の回答割合が最も多かったが（38.5%）、他の 2 群においても約 4 分の 1 を占めた。

いずれの群でも、約 20%の者が「大切なことではあるが現実的には厳しい」と回答しており、状況の改善や効果性を追い求めることに抵抗がある者は約 1-3%であった。

表 6-6 EBP プログラムについてあなたはどのようにお考えになりますか

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大切なことなので自らそのように実践したい	n	418	390	82	890
	%	19.4%	40.0%	38.0%	26.6%
大切なことではあるが現実的には難しい	n	434	230	51	715
	%	20.1%	23.6%	23.6%	21.3%
状態の改善や効果性を追い求めることには抵抗がある	n	30	27	3	60
	%	1.4%	2.8%	1.4%	1.8%
よく分からない	n	831	259	55	1145
	%	38.5%	26.6%	25.5%	34.2%
無回答	n	447	68	25	540
	%	20.7%	7.0%	11.6%	16.1%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

7) 福祉プログラム評価履修コースへの関心

本学の研究大学院で開設されている福祉プログラム評価履修コースに関心がある者（「大いに関心がある」と「ある程度関心がある」の回答者）の割合は、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生では 6-7 割を占めたが、関心がない者（「あまり関心がない」と「全く関心がない」の回答者）の割合は、いずれも約 4 分の 1 を占めた。

学部卒業生では、関心がある者の割合は約半数であり、関心がない者の割合は約 45% であった。

表 6-7 福祉プログラム評価履修コースへの関心

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大いに関心がある	n	111	110	29	250
	%	5.1%	11.3%	13.4%	7.5%
ある程度関心がある	n	725	574	110	1409
	%	33.6%	58.9%	50.9%	42.1%
あまり関心がない	n	750	204	46	1000
	%	34.7%	20.9%	21.3%	29.9%
まったく関心がない	n	213	28	8	249
	%	9.9%	2.9%	3.7%	7.4%
無回答	n	361	58	23	442
	%	16.7%	6.0%	10.6%	13.2%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

8) 福祉実践家を対象とした研修会、技術講習会への関心

本学で開催を検討している、プログラム評価アプローチに関する福祉実践家対象の研修会等へ関心がある者（同上）の割合は、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生では 6-7 割を占め、関心がない者（同上）の割合は約 2 割であった。学部生では、関心がある者の割合は約半数であり、関心がない者の割合は約 3 分の 1 であった。

表 6-8 福祉実践家を対象とした研修会、技術講習会への関心

		グループ			合計
		学部	通信	PGS	
大いに関心がある	n	189	162	36	387
	%	8.8%	16.6%	16.7%	11.6%
ある程度関心がある	n	851	587	122	1560
	%	39.4%	60.3%	56.5%	46.6%
あまり関心がない	n	568	148	31	747
	%	26.3%	15.2%	14.4%	22.3%
まったく関心がない	n	191	29	5	225
	%	8.8%	3.0%	2.3%	6.7%
無回答	n	361	48	22	431
	%	16.7%	4.9%	10.2%	12.9%
合計	n	2160	974	216	3350
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

9) まとめと考察

根拠に基づく実践（EBP）に対する認識を、EBPの認知度、有用性、研修等への参加意向、実施・普及活動への関与意向、EBPの実践意向から検討した。また、プログラム評価に関する認識を、本学大学院の福祉プログラム履修コースへの関心度および福祉実践家向け研修会等への関心度から検討した。

学部、通信教育科、専門職大学院のいずれにおいても、EBPの認知度は低いことが示されたが、同時に、EBPが福祉ニーズをもつ人たちに対してある程度役立つかもしれないと認識しており、EBPに関する研修会等の受講意向や、EBPの実施・普及活動への関与意向、EBPの実践意向が一定程度あることが示された。この傾向は、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生において顕著であった。学部卒業生は、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生と比べて、EBPを知らない者の割合が大きく、EBPが役立つと認識している者の割合、EBPに関する研修会等の受講やEBPの実施・普及活動への関与の意向、EBPの実践意向が高い者の割合が小さかった。

プログラム評価に関する認識においても、全体および学部卒業生、通信教育科卒業生、専門職大学院修了生それぞれで、EBPへの認識と同様の傾向が認められた。

これらの結果の背景には、いくつかの要因が考えられよう。ひとつは、学部および通信教育科、専門職大学院の開設時期と、EBPやプログラム評価が社会福祉領域で取り上げられるようになってきた時期の関連があるかもしれない。通信教育科および専門職大学院が開設されてから約10年が経過しているが、EBPやプログラム評価が社会福祉領域で扱われるようになってきたのもこの10年程度である。そのため、EBPやプログラム評価を本学でも取り上げたようになった以前に卒業した学部卒業生は、通信教育科卒業生や専門職大学院修了生に比べて認識が低いのもかもしれない。

もう一つは、とくに専門職大学院に入学する者は、専門的知識や技術の習得、実践経験の体系化や理論化を目的として入学する者など意識の高い者が多く（表1-4）、その1つの方法であるEBPやプログラム評価に対する認識が高いのもかもしれない。これらの背景に関しては、次節において詳しく検討する。

EBPの有用性を認識している者は、学部卒業生の約3割、通信教育科卒業生および専門職大学院修了生の約半数を占めた。また、EBPを実践が現実的には難しいと回答した者がいずれの群でも約2割を、よく分からないと回答した者が約25-40%を占めた。これらの結果より、実践で効果を高める方法の一つとしてEBPが有用であることの認識を高めるための啓発・研修・教育の必要性や、それを実践に移すための工夫やそのひとつの方法としてのプログラム評価のアプローチを伝達し共有できるための教育・研修の機会が必要であることが示唆されよう。プログラム評価に関する大学院履修コースや研修機会に対して、関心がない者が一定数占めることを考慮すると、プログラム評価が実践にどのように役立つのかに関する具体的説明などにより、その動機付けを高める工夫が必要になるだろう。

7. 根拠に基づく実践（EBP）・プログラム評価への関心に関わる要因

本節では、根拠に基づく実践（EBP）およびプログラム評価への関心の程度に関連する回答者の属性やキャリアに関する状況・認識等を、Spearman の順位相関係数により検討した。分析結果（表 7-1-表 7-14）の特徴は、次のように要約することができる。

- ① 専門職大学院修了生は、学部および通信教育科卒業生と比べて、背景属性はほとんど関心度と関連が認められなかった。
- ② 学部および通信教育科卒業では、卒業後および現在の業務内容の違い（表 7-1、7-2）、受講したキャリア形成関連の研修会等の違い（表 7-6）、キャリア形成の状況の違い（表 7-7）、関心のあるキャリア形成教育プログラムや取り組みの違い（表 7-10、表 7-11）と、関心度の違いはほとんど認められなかった。
- ③ 学部卒業生のみ、現在のキャリア状況への満足度の低さ（表 7-3）、卒業後の福祉関連資格の取得（表 7-4）、大学院修士課程進学（表 7-5）、介護関連の研修会受講（表 7-6）、現職および福祉職の勤務年数の短さ（表 7-12）、勤務領域が高齢者福祉／障害者福祉／精神保健福祉／保健医療福祉／公的扶助／国際福祉領域であること（表 7-13）、福祉関連資格保有（表 7-14）が、関心度の高さに関連した。
- ④ 学部卒業生では、キャリア形成のために現在の職場に勤めながら外部の教育・研修に参加できる環境（通信制、夜間・週末・休日、e-ラーニング等）の必要性を認識が関心度の高さに関連した（表 7-8）。通信教育科卒業生では、職場内での研修機会の充実と職場外でのスーパービジョン、夜間・週末のリカレント講座の必要性の認識が、関心度の高さに関連した（同、表 7-8）。
- ⑤ 自身のキャリア状況を向上させる意識の高さ（表 7-3）、学会等での研究発表の経験（表 7-6）、本学のリカレント講座や学内学会への関心（表 7-10）、実践的研究能力の習得や実践プログラム改善・向上のためのアプローチ法の習得への関心（表 7-11）は、学部・通信教育科卒業生および専門職大学院修了生に共通して、関心度の高さとの関連が認められた。

多くの背景情報との単変量解析であるため、多変量解析を用いたより詳細な検討が必要かもしれないが、これらの結果から次のような解釈が可能になるかもしれない。

まず、専門職大学院修了生は、前節の考察で触れたとおり、実践能力の向上や実践の改善・向上を目的として入学した者が多いことから、一様に EBP やプログラム評価に対する関心が高く、これらに関する背景情報以外は関心度との関連がほとんど認められなかったのかもしれない。このことは、専門職大学院やその修了生に対して、EBP やプログラム評価に関する研修の機会をより広く提供することが必要になると思われる。

一方、学部卒業生は EBP やプログラム評価への関心度が通信教育科卒業生や専門職大学院修了生よりも低かったが（前節参照）、これは、関心度と関連する背景情報が学部卒業生において多く認められ、バラつきが生じていることが関係しているのかもしれない。これは同時に、とくに福祉職の経験年数が短い実践家や大学院修士課程進学者、介護系の研

修会等受講者は EBP やプログラム評価への関心が高い者が多く、これらの人たちに EBP やプログラム評価に関する教育・研修機会等の情報が広く届くような工夫が必要であることを示唆している。EBP やプログラム評価に対するニーズの高い層には、本学大学院で開設している福祉プログラム評価履修コースが有用であるかもしれない。一方で、これらの人たちは通信制や夜間休日の大学院や夜間・週末のリカレント講座などへの要望が高く、現在の通常業務を維持しながら受講・履修が可能な機会を設定するなど、ニーズに応じた機会の設定が必要となるかもしれない。

通信教育科卒業生では、EBP やプログラム評価への関心に関連する一貫した特徴的な要因は認められなかったが、ここには、通信教育科の入学目的が多様であることが関連していると思われる。本調査では扱っていない要因が関連している可能性があるが、通信教育科卒業生の EBP やプログラム評価に関する関心は、専門職大学院修了生に次いで高く（前節参照）、より詳細な関連要因の検討-ニーズを把握し、通信教育科における教育内容の検討や、卒業生に対して必要な情報が提供できるような工夫が必要となろう。

全体的に、キャリア形成向上意識の高い者は EBP やプログラム評価への関心が高いことが示され、EBP やプログラム評価を盛り込んだ、キャリア形成に役立つ教育・研修のあり方を検討していくことが必要となるだろう。

表 7-1 卒業後の最初の進路（業務内容）と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
相談援助業務	ρ	.099 **	.042	.066
	p	.000	.207	.367
その他のソーシャルワーク(SW)業務	ρ	.049 *	.053	-.104
	p	.042	.113	.154
SW 以外の対人援助業務	ρ	.103 **	.076 *	-.046
	p	.000	.023	.525
事業所・施設内スタッフ等のスーパービジョン	ρ	.019	.085 *	.087
	p	.419	.011	.232
事業所・施設外のソーシャルワーカー等のスーパービジョン、地域連携業務、 コンサルテーション業務	ρ	.056 *	.089 **	-.009
	p	.020	.007	.901
事務業務	ρ	-.055 *	-.042	-.053
	p	.023	.209	.466
営業業務	ρ	-.042	-.015	-.138
	p	.080	.644	.057
管理・運営業務	ρ	.023	.011	.010
	p	.343	.747	.888
教育・研修業務（含、実習生受け入れ）	ρ	-.046	-.009	.050
	p	.056	.795	.493
研究・評価・業務改善業務	ρ	.062 **	-.013	.037
	p	.010	.688	.609
その他	ρ	-.041	-.005	-.006
	p	.085	.876	.935
職業等なし	ρ	.	-.076 *	.009
	p	.	.023	.897

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-2 現在のキャリア状況（業務内容）と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
相談援助業務	ρ	.233 **	.109 **	.073
	p	.000	.001	.314
その他のソーシャルワーク(SW)業務	ρ	.153 **	.067 *	.059
	p	.000	.045	.421
SW 以外の対人援助業務	ρ	.131 **	.074 *	-.089
	p	.000	.026	.223
事業所・施設内スタッフ等のスーパービジョン	ρ	.102 **	.066 *	.017
	p	.000	.049	.820
事業所・施設外のソーシャルワーカー等のスーパービジョン、地域連携業務、 コンサルテーション業務	ρ	.114 **	.148 **	.078
	p	.000	.000	.283
事務業務	ρ	-.031	-.031	-.048
	p	.202	.356	.506
営業業務	ρ	-.030	-.005	-.079
	p	.218	.882	.279
管理・運営業務	ρ	.078 **	-.018	.058
	p	.001	.582	.423
教育・研修業務（含、実習生受け入れ）	ρ	.081 **	.019	.076
	p	.001	.573	.299
研究・評価・業務改善業務	ρ	.039	-.002	.051
	p	.103	.961	.480
その他	ρ	-.068 **	-.036	-.127
	p	.004	.285	.079
職業等なし	ρ	.	-.126 **	.005
	p	.	.000	.944

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-3 現在のキャリアに関する認識と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
現在のキャリア状況への満足	ρ	-.091 **	-.029	.027
	p	.000	.381	.710
自分のキャリアをより良いものにしようと考えたことがあるか	ρ	-.374 **	-.284 **	-.206 **
	p	.000	.000	.004

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

満足に関しては高得点が低満足、考えたことがあるかどうかについては「1: よく考える」～「4: まったく考えない」

表 7-4 卒業後に取得した資格と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
社会福祉士	ρ	.125 **	.028	-.096
	p	.000	.395	.186
精神保健福祉士	ρ	.155 **	.056	.038
	p	.000	.095	.603
介護支援専門員	ρ	.083 **	-.010	-.052
	p	.000	.771	.477
主任介護支援専門員	ρ	.017	-.014	.015
	p	.473	.682	.838
介護福祉士	ρ	.086 **	.020	.013
	p	.000	.552	.863
看護師	ρ	.039	.034	-.060
	p	.104	.305	.409
医師	ρ	.	.	.
	p	.	.	.
その他	ρ	-.010	.061	-.047
	p	.666	.065	.516
該当なし	ρ	-.116 **	-.111 **	.086
	p	.000	.001	.237

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ , 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-5 卒業後に大学・大学院等で学んだ経験と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
大学院博士前期課程(修士課程)	ρ	.104 **	.057	-.094
	p	.000	.087	.194
大学院博士後期課程	ρ	.035	.013	-.012
	p	.149	.701	.867
専門職大学院	ρ	.035	.001	.084
	p	.146	.965	.248
大学再入学(資格取得と関係)	ρ	.067 **	.050	.111
	p	.005	.132	.126
大学再入学(資格取得と無関係)	ρ	-.014	.036	.
	p	.563	.286	.
専修学校入学(除、通信教育科)	ρ	.027	-.053	.
	p	.268	.112	.
通信教育科(資格取得と関連)	ρ	.105 **	.024	.102
	p	.000	.465	.162
その他	ρ	-.003	.034	.005
	p	.897	.305	.942
該当なし	ρ	-.118 **	-.082 *	-.016
	p	.000	.013	.823

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ , 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-6 キャリア形成に関わる研修会や教育・研究機会と EBP 得点の相関

	ρ	区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
社会福祉士会・精神保健福祉士協会が実施するスーパーバイザー養成研修の受講	p	.061 *	.091 **	.025
	p	.011	.006	.731
社会福祉士会・精神保健福祉士協会等が実施する実習指導者講習会の受講	p	.118 **	.067 *	.056
	p	.000	.044	.445
成年後見、虐待防止、ホームレス支援、滞日外国人支援、災害支援、触法障害者支援などの専門領域の講習会受講	p	.205 **	.100 **	-.004
	p	.000	.002	.953
スーパーバイザーから、一定期間、スーパービジョンを受けた経験	p	.084 **	.086 **	-.005
	p	.000	.010	.944
学会・協会大会などで研究発表を行った経験	p	.145 **	.104 **	.145 *
	p	.000	.002	.046
専門誌において研究報告、実践報告を行った経験	p	.073 **	.056	.114
	p	.002	.095	.116
科学的根拠にもとづく実践（EBP）プログラムに関する研修・講習会を受講した経験	p	.068 **	.108 **	.041
	p	.004	.001	.571
福祉サービス第三者評価調査者養成研修等を受講	p	.037	-.003	-.107
	p	.119	.930	.139
日本医療機能評価機構の評価調査者（サーベイヤー）を務めた経験	p	.005	-.034	.
	p	.842	.304	.
日本評価学会が主催する評価士養成研修を受講した経験	p	.	.	.
	p	.	.	.
サービス管理責任者研修	p	.	.054	-.010
	p	.	.107	.895
介護支援専門員実務研修受講の経験	p	.109 **	.029	-.004
	p	.000	.388	.958
介護支援専門員専門研修Ⅰ及び介護支援専門員専門研修Ⅱの受講の経験	p	.061 *	.002	.016
	p	.011	.945	.822
相談支援専門員実務研修	p	.	.068 *	.101
	p	.	.040	.165
認定社会福祉士・認証研修	p	.	-.018	.127
	p	.	.591	.080
認定精神保健福祉士・基幹研修・更新研修	p	.	.089 **	.048
	p	.	.007	.514
ケアマネジメントリーダー養成研修会受講の経験	p	.047 *	-.015	-.009
	p	.049	.661	.899
日本ケアマネジメント学会が認定する認定ケアマネジャーの取得	p	-.028	.018	.
	p	.249	.581	.
介護技術技講習の受講の経験	p	.036	.038	.038
	p	.132	.251	.602
福祉系大学が行う実践研究に関する研修・講習会を受講した経験	p	.138 **	.140 **	-.007
	p	.000	.000	.920
福祉系大学が行う実践能力向上のための研修・講習会を受講した経験	p	.144 **	.079 *	.103
	p	.000	.017	.158
社大専門職大学院アドバンスソーシャルワーカーの認定資格の取得	p	.029	-.006	.095
	p	.220	.863	.191
社大専門職大学院継続修習制度への登録	p	.	.001	.065
	p	.	.973	.371
その他	p	.069 **	-.015	.038
	p	.004	.646	.606
以上に、該当するものはない	p	-.235 **	-.181 **	-.136
	p	.000	.000	.062

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-7 キャリア形成の状況と EBP 得点の相関

	ρ	区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
入所施設・通所施設・地域事業所・医療機関・公務員などいくつかの領域の仕事を経験した	p	.092 **	.086 **	.039
	p	.000	.010	.588
キャリアを向上させることを目的に転職をしたことがある	ρ	.123 **	.067 *	-.166 *
	p	.000	.043	.022
キャリアを向上させることを目的に大学院や大学に入学したことがある	ρ	.104 **	.081 *	-.004
	p	.000	.014	.958
あなたの経験を買われて、頼まれて転職したことがある	ρ	.071 **	.049	-.083
	p	.003	.138	.251
転職の経験はない（同じ職場でキャリア形成）	ρ	.048 *	-.021	.070
	p	.044	.523	.339
転職の回数が1～2回程度ある	ρ	.	-.026	.007
	p	.	.439	.927
転職の回数が3～5回程度ある	ρ	.	.020	-.080
	p	.	.551	.271
転職の回数が6回以上ある	ρ	.	-.020	-.053
	p	.	.556	.468
育児のため休職・離職した経験がある（同じ職場で復職、あるいは復職予定）	ρ	.	.012	.063
	p	.	.715	.390
結婚・育児のために転職・離職したことがある（前問以外）	ρ	.039	.042	-.002
	p	.108	.212	.982
結婚・育児のために転職・離職したことがある（前問以外）	ρ	-.039	.	.
	p	.103	.	.
その他のキャリア形成の経験がある	ρ	.069 **	.002	.111
	p	.004	.947	.126
具体的に	ρ	.	.066 *	-.047
	p	.	.047	.520
就職したことがない（家事手伝い・専業主婦などを選択した場合を含む）	ρ	-.035	-.047	-.053
	p	.147	.158	.470
以上のうち、当てはまるものがない	ρ	-.099 **	.	.
	p	.000	.	.

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-8 キャリア形成に関するニーズと EBP 得点の相関

	ρ	区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
キャリア形成の状況に対する満足度				
	ρ	-.017	.028	.047
	p	.475	.400	.515
職場の研修機会の充実				
	ρ	.000	.069 *	.071
	p	.986	.037	.327
職場内での適切なスーパービジョン				
	ρ	.101 **	.036	.070
	p	.000	.279	.338
職場外での適切なスーパービジョン				
	ρ	.	.092 **	-.101
	p	.	.006	.164
職場（上司・同僚）の理解				
	ρ	.090 **	-.019	-.109
	p	.000	.576	.132
通信教育の充実				
	ρ	.064 **	.013	-.037
	p	.007	.699	.611
通信制大学院の開設				
	ρ	.132 **	.059	.077
	p	.000	.077	.293
インターネットを活用したe- ランニング				
	ρ	.050 *	.027	-.047
	p	.037	.423	.520
夜間・週末のリカレント講座開講				
	ρ	.117 **	.092 **	.055
	p	.000	.006	.452
夜間休日の大学院講座開講				
	ρ	.136 **	.023	.027
	p	.000	.498	.711
通いやすい地元での出張講座				
	ρ	.	.000	.049
	p	.	.997	.502
休日のセミナー開催				
	ρ	.060	.038	.088
	p	.012	.256	.226
家族の理解				
	ρ	.025	-.024	-.033
	p	.298	.470	.646
遠隔地での出張講座				
	ρ	.028	.	.
	p	.242	.	.
保育施設・夜間保育などの子育て支援態勢				
	ρ	.012	.008	.028
	p	.603	.800	.705
年間所得のアップ				
	ρ	.047	-.019	.050
	p	.052	.566	.496
教育訓練給付制度等の活用				
	ρ	.041	-.064	.007
	p	.089	.056	.922
専門職、有資格者に対する評価向上				
	ρ	.	-.025	-.018
	p	.	.456	.809
その他				
	ρ	-.013	-.019	-.044
	p	.580	.567	.543
以上に当てはまるものはない				
	ρ	-.225 **	-.138 **	-.160 *
	p	.000	.000	.027

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-9 認定社会福祉士制度に関する知識と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
認定社会福祉士制度について、どの程度ご存知ですか	ρ	.	-.131 **	-.142 *
	p	.	.000	.050
認定社会福祉士制度について、どの程度ご関心をお持ちでしょうか	ρ	.	-.286 **	-.286 **
	p	.	.000	.000

** $p < 0.01$, * < 0.05 , ρ Spearman's ρ , EBPへの関心は高得点が高い関心を表す
 認知度に関しては低得点がよく知っている、関心については低得点が高い関心を表す

表 7-10 関心のあるキャリア形成教育プログラムと EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
専門職大学院	ρ	.292 **	.	.
	p	.000	.	.
研究大学院	ρ	.276 **	.272 **	.119
	p	.000	.000	.101
通信教育科	ρ	.146 **	.209 **	.111
	p	.000	.000	.125
リカレント講座	ρ	.397 **	.254 **	.277 **
	p	.000	.000	.000
学内学会 (日本社会事業大学社会福祉学会)	ρ	.189 **	.189 **	.180 *
	p	.000	.000	.013
ホームカミングデイ	ρ	.110 **	.	.
	p	.000	.	.
その他	ρ	-.013	.045	.111
	p	.574	.173	.127
以上のうち関心のあるものはない	ρ	-.474 **	-.393 **	-.296 **
	p	.000	.000	.000

** $p < 0.01$, * < 0.05 , ρ Spearman's ρ , 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-11 関心のあるキャリア形成の取り組みと EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
スーパーバイザーとしての能力の習得	ρ	.268 **	.210 **	.067
	p	.000	.000	.358
経営・管理能力の習得	ρ	.134 **	.085 *	.062
	p	.000	.011	.391
実践的研究能力の習得	ρ	.251 **	.207 **	.221 **
	p	.000	.000	.002
プログラム評価など実践プログラム改善・向上のためのアプローチ法の習得	ρ	.260 **	.204 **	.265 **
	p	.000	.000	.000
専門的知識の習得	ρ	.299 **	.170 **	.092
	p	.000	.000	.205
専門的技術の習得	ρ	.311 **	.211 **	.100
	p	.000	.000	.168
認定社会福祉士	ρ	.	.133 **	.235 **
	p	.	.000	.001
認定上級社会福祉士	ρ	.	.159 **	.207 **
	p	.	.000	.004
資格の取得	ρ	.135 **	.079 *	.166 *
	p	.000	.018	.022
これまでと異なる進路の模索	ρ	-.001	-.053	.087
	p	.971	.114	.231
子育て後の職場復帰のための知識・技能の習得	ρ	.050 *	-.012	-.002
	p	.036	.719	.973
その他	ρ	.006	.002	.107
	p	.796	.941	.140
以上のうち当てはまるものはない	ρ	-.370 **	-.252 **	-.235 **
	p	.000	.000	.001

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-12 基礎属性と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
年齢	ρ	-.252 **	-.035	-.017
	p	.000	.295	.820
現職の勤務年数	ρ	-.218 **	-.060	.116
	p	.000	.070	.109
福祉職としての勤務年数	ρ	-.097 **	-.023	.059
	p	.000	.487	.420

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-13 福祉職としての勤務した主な領域と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
子ども・家庭福祉	ρ	-.017	.016	-.072
	p	.484	.620	.321
高齢者福祉	ρ	.068 **	.030	-.026
	p	.004	.373	.719
障害者福祉	ρ	.068 **	.017	-.030
	p	.004	.608	.679
精神保健福祉	ρ	.131 **	.032	.118
	p	.000	.336	.103
保健医療福祉	ρ	.080 **	.062	.032
	p	.001	.061	.660
地域福祉	ρ	.013	-.001	-.046
	p	.600	.974	.527
公的扶助	ρ	-.048 *	-.014	-.002
	p	.045	.679	.977
司法福祉	ρ	.000	-.001	-.036
	p	.991	.980	.617
女性福祉・ジェンダー	ρ	.013	-.016	-.081
	p	.582	.626	.268
国際福祉	ρ	.048 *	-.007	.018
	p	.043	.831	.807
介護福祉	ρ	.032	-.042	.039
	p	.186	.208	.597
経営管理	ρ	.	.039	-.019
	p	.	.236	.790
政策立案	ρ	.	-.023	-.015
	p	.	.490	.837
貧困福祉	ρ	.	.053	.073
	p	.	.113	.318
その他	ρ	-.028	-.016	.085
	p	.235	.633	.244
特になし	ρ	-.148 **	-.077 *	-.018
	p	.000	.020	.807

** p < 0.01, * < 0.05, ρ Spearman's ρ, 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

表 7-14 現在所持する資格と EBP 得点の相関

		区分		
		学部 (n=1743)	通信 (n=904)	PGS (n=191)
社会福祉士	ρ	.231 **	.025	-.084
	p	.000	.457	.247
精神保健福祉士	ρ	.168 **	.044	-.001
	p	.000	.190	.988
介護福祉士	ρ	.110 **	-.017	.047
	p	.000	.613	.522
介護支援専門員	ρ	.086 **	-.006	.097
	p	.000	.863	.183
主任介護支援専門員	ρ	.031	-.016	.026
	p	.190	.632	.720
保育士	ρ	.009	.017	-.010
	p	.695	.620	.892
社会福祉主事	ρ	.113 **	.038	-.079
	p	.000	.259	.277
教諭	ρ	-.092 **	.041	.097
	p	.000	.221	.181
養護教諭	ρ	-.015	-.019	-.031
	p	.529	.569	.673
医師	ρ	.	.	.
	p	.	.	.
看護師	ρ	.029	.035	.033
	p	.232	.287	.654
作業療法士	ρ	-.021	.056	.
	p	.382	.093	.
理学療法士	ρ	-.002	.035	.
	p	.918	.287	.
その他	ρ	-.001	.031	-.029
	p	.967	.350	.690

** $p < 0.01$, * < 0.05 , ρ Spearman's ρ , 各項目は「1: あてはまる, 0: あてはまらない」, EBPへの関心は高得点が高い関心を表す

IV. 総合考察と展望

学部・専門職大学院・通信教育科を卒業した者の三群を対象に比較すると、キャリア形成にかかわる意識について「ときどき考える」は大きな差を認めないが、「よく考える」は学部卒の 21.4% に比して、通信教育科卒 43.9%、専門職大学院卒 48.1% と大きく異なる。社会人経験を有して資格取得を目的に通信教育科に進学した者と、現場実践経験を踏まえて自身のスキルアップを目指して専門職大学院に進学した者の、キャリア形成意識の高さを表していると考えられる。一方、逆に「あまり考えない」「まったく考えない」については、両者を合わせ学部卒 22.8%、通信教育科卒 8.7%、専門職大学院卒 6.9% となっており、学部卒者のキャリア形成意識は他の二者に比して概して低い。本調査における回答者の属性（年齢・現場実践経験年数）を精査する必要があるが、一概には言い切れないが、これら三群を標的集団とするキャリア形成モデルはおのずと異なるものとなる。

学部卒者に対するキャリア形成の特徴として、現場実務に直結する専門知識の習得、資格の取得等への志向性が強いことが挙げられる。特に卒後の介護支援専門員、介護福祉士等の資格取得については、学部卒者が他の二群に比しても高い。現行の介護保険制度下における高齢者領域のサービス提供組織に勤務する者にとっては、これらが学部を卒業した後に取得をめざす資格として位置づけられていると考えられる。

学部卒業者の回答からは、ライフステージとのバランスに葛藤する様子が見えられた。回答者の多くは 20 代、30 代が中心であり、結婚や出産、育児等のライフステージと重なるころである。学ぶ意欲があっても、動きにくい現状が考えられる。「キャリア形成をより良くするために必要なこと」への回答として、「職場の研修機会の充実」「職場内での適切なスーパービジョン」、「職場の理解」が多くを占めており、身近な職場での研修充実を望む声につながっているのではないかと考えられる。

また、専門職大学院や通信教育科に比べ、結婚・育児のために休職や転職をした者や、子育て支援態勢の充実に要望が高かった。社大には、さまざまなコースが設置されている。この利点を活かした支援体制を研修機会とセットで提供する等の工夫も求められる。さらに、社大が提供するキャリア形成プログラムへの関心のうち、専門職大学院がおこなうリカレント講座への関心が、38.2%、通信教育科が 22.4% を占めている。在学中より、専門職大学院や通信教育科などの授業の聴講や体験等も、将来、学びを深めること、キャリア形成を考えたときの選択に役立つと考える。

卒業後、学ぶ意欲が高まるものの、生活とのバランスでキャリア形成の機会を中断するのではなく、継続していけるよう、大学在学中から継続したキャリア支援、大学と職場が連携して専門職を育てていく取り組みが必要とされる。

専門職大学院は、本邦唯一の福祉専門職大学院として 2004 年度に開設された。今回の調査で修了生の満足度を問うと「満足」「どちらかという満足」、合わせて 82.9% に達し満足度は高いと評価できる。専門職大学院で学ぶことで達成できた入学目的としては、約 7 割の者が「専門的知識の習得」を挙げており、「実践経験の体系化・理論化」「資格の取得（社会福祉士）」「専門的技術の習得」などが、それぞれ 30% 台の回答が得られて

おり、専門職大学院での学びの成果として示されている。また、専門職大学院に入学することにより「社大での人脈・ネットワークの形成」や「受講生同士の人脈・ネットワーク形成」が得られたとする者が、それぞれ 38.9%、36.1%と高い割合を示している。ともに専門職大学院で学んだインフォーマルな結びつきが、その後の専門職としてのネットワーク形成に寄与していると考えられる。一方で、専門職大学院の満足度として「どちらともいえない」「どちらかという不満」「不満」、合わせて 16.2%のネガティブな回答も見受けられる。本来専門職大学院の主要な教育目標であるはずの「現場・地域を変える力量の形成」「経営・管理能力の習得」「スーパーバイザー能力の習得」についても、それぞれ 16.7%、14.4%、12.5%にとどまっている。初期の未成熟な専門職大学院のカリキュラムが、等しく院生のキャリア形成に役立っていると実感されていない現実があり、創設以来 10 年間にわたって改革されてきた専門職大学院の教育カリキュラムの課題を示していると考えられる。

専門職大学院におけるキャリア形成モデルは、開設 10 年間で大きく変わってきている。現場実践家が資格取得を目指して入学してきた「日本社会事業学校研究科」の流れを引き継ぐ形で専門職大学院が設立された経緯もあり、初期のカリキュラムは社会福祉士受験科目を中心とした構成であった。初年度 1 期生に占める社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は 80 名中 51 名いたが、2-4 期生は 30 名台に、5-6 期生は 20 名台と年々減り続け、7 期生（2011 年度入学）以降は 10 名→6 名→2 名→1 名と減少していった。一方、入学者に占める社会福祉士資格取得者の割合は、初年度 1 期生は 28.8%から年々増加し、直近 3 年間では 2011 年度（8 期生）50.0%、9 期生 59.0%、10 期生 71.8%となっている。また、精神保健福祉士資格取得者（社会福祉士との重複取得者を含む）も直近 3 年平均で 31.9%に達している。入学者の平均年齢は初年度 1 期生の 37.3 歳から直近 10 期生では 45.6 歳まで上がっており（10 年間の平均は 40.1 歳）、開設 10 年間で専門職大学院に通う入学者の対象層は大きく変貌を遂げ、今日では社会福祉士・精神保健福祉士資格を取得しているのが当たり前となり、有資格の中堅・ベテラン層の更なるスキルアップを図るリカレント教育の場として定着してきていると言える。このため、開設 10 年目の 2013 年度末をもって社会福祉士受験資格取得課程は廃止するとともに、2014 年度からは認定社会福祉士・認定上級社会福祉士制度に対応した教育カリキュラムに大きく再編することとなっている。キャリア形成を図る社会福祉実践家の教育ニーズに応えうる、時代に即した改革を推し進めていく必要がある。

通信教育科の大きな特徴としては、やはり資格取得が目的とされていることにある。資格取得に向けての取り組みは 90%以上の卒業生が満足感を示しており、これからも満足度 100%に向けて継続的に取り組むことは必須業務である。それ以外のニーズとして 66.9%の卒業生が専門的知識の習得を挙げている。社大講師陣が提供する質の高い講義や演習が高い評価を得ていると思われる。これは異業種・同業他職種から入学してくる学生が多いことから、資格取得に加えてソーシャルワークの基礎から PSW としての価値・倫理・実践的な知識を学ぶことを目的に社大に入学する学生が多いことに起因している。また社大が提供するキャリア形成プログラムへの関心のうち、60.6%の卒業生が専門職大学院のリカレント講座へ関心を示している。同じく研究科大学院への関心も 32.2%と高い。現在通信教育科卒業後の進路として通信教育科から専門職大学院への推薦入試制度を設け

ているが、在学中から専門職大学院・研究科大学院の授業の聴講などをおこなうなどの取り組みがあると良いのではないか。通信養育科在学中にあったら良かったと思うオプションコースの項目にも、【社大学部・専門職大学院・研究科大学院の聴講】【社大講師陣による特別講義】および【ゼミ形式での学び】がそれぞれ30%～40%の割合で挙げられており、この層に向けてのアプローチを考える必要がある。

本学通信教育科の満足度は非常に高く9割近くの卒業生が満足している。この満足度の高さはすなわち、本学がおこなうリカレント教育・キャリア形成への取り組みへの期待度の表れと捉えることができる。またこれだけの高い支持率があることから、いささかチャレンジングな取り組みも可能なのではないか。しかしながらSPSフォーラムの周知度の低さに見られるように、興味はあっても情報にアクセスする機会がないことが明らかになり、戦略的に広報を打つことで通信卒業生の中にある潜在的なニーズを呼びこす可能性は高いと言える。

SPSフォーラム、学内学会でのホームカミングデイ、学部卒業生の勉強会など通信教育科精神保健福祉士養成課程卒業生が、卒後社大と関われる機会は充実してきている。一方でそれぞれの取り組みが未整理で施行されているため、今一つ効果的な取り組みとなっていない。今後はこれら3つの取り組みを統合し、社大がおこなう精神保健福祉領域のキャリア形成教育プログラムを具現化する場と捉えても良いのではないかと考える。

今回の調査で顕著に明らかになったこととしては、通信教育科の卒業生の多くは、専門職大学院および研究科大学院に強い関心があり、そこでの教育体験を望んでいることである。この潜在的ニーズをキャリア形成教育にどのように生かしていくのか今後の課題として挙げられるが、それを具現化する基盤はできておりプロジェクトチームをつくるなど、学内コンセンサスを得ることが必要となるであろう。

2012年度日本社会事業大学学内共同研究・社会福祉政策・高度先進研究事業
福祉系大学・大学院・養成校卒業者のキャリア形成と大学・大学院の
役割に関する研究会

大島 巖（日本社会事業大学／研究班代表）
古屋龍太（日本社会事業大学）
贄川信幸（日本社会事業大学）
添田雅宏（日本社会事業大学）
北本明日香（日本社会事業大学）
佐竹要平（日本社会事業大学）
園環樹（株式会社シロシベ）
鴨澤小織（日本社会事業大学・日本大学／事務局）
及川博文（日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科／事務局）
鈴木真智子（日本社会事業大学社会福祉学部／事務局）
高野悟史（日本社会事業大学社会福祉学部／事務局）
※所属は2013年3月当時

【執筆分担】（執筆順）

大島 巖（日本社会事業大学）：Ⅰ章、Ⅱ章、Ⅳ章
園 環樹（株式会社シロシベ）：Ⅰ章、Ⅱ章
及川博文（日本社会事業大学）：Ⅲ章1、Ⅲ章2
鈴木真智子（日本社会事業大学）：Ⅲ章1、Ⅲ章2
高野悟史（日本社会事業大学）：Ⅲ章1、Ⅲ章2
古屋龍太（日本社会事業大学）：Ⅲ章3、Ⅲ章5-3）、Ⅳ章1
佐竹要平（日本社会事業大学）：Ⅲ章4
添田雅宏（日本社会事業大学）：Ⅲ章5-1）2）、-4）、5）Ⅳ章1
鴨澤小織（日本社会事業大学／日本大学）：Ⅲ章5-7）
贄川信幸（日本社会事業大学）：Ⅲ章6、Ⅲ章7

2012 年度日本社会事業大学学内共同研究・社会福祉政策・高度先進研究事業

**日本社会事業大学卒業者のキャリア形成と
福祉系大学の役割に関する調査研究報告書(第二報)**
～学部・専門職大学院・通信教育科卒業生それぞれの
キャリア形成ニーズの特徴と比較～

発行日 2013 年 6 月 30 日

発行者 福祉系大学・大学院・養成校卒業者のキャリア形成と大学・大学院の
役割に関する研究会(主任研究者:大島巖)

事務局 日本社会事業大学 大島研究室

〒204-8555 東京都清瀬市竹丘 3-1-30

Tel/Fax 042-496-3126、Email : oshima2.jcsw@gmail.com
